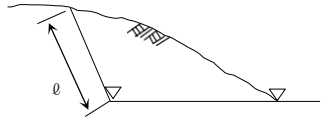
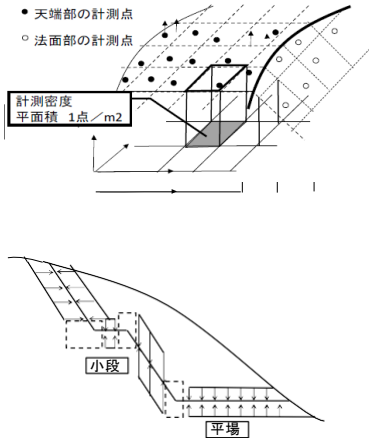
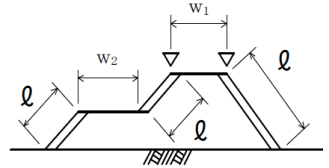
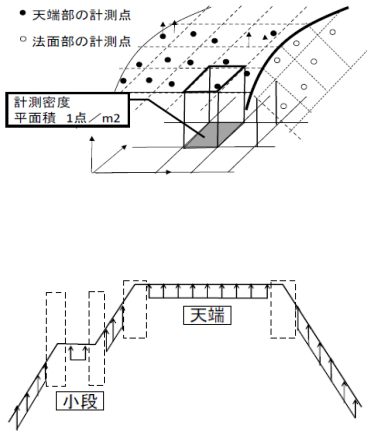
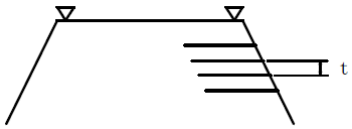
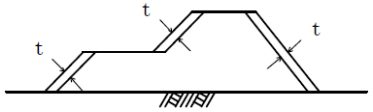
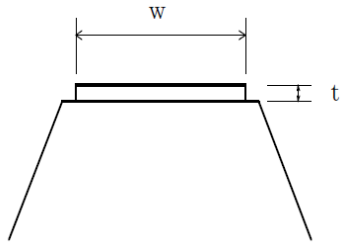
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値		測定基準	測定箇所	摘要
3 森林土木工事共通編	2 土工	1 適用	6	1	掘削工	基準高 ▽		±50		施工延長40mにつき１箇所、延長40m以下のものは１施工箇所につき２箇所。		3-2-1-6
						法長ℓ	ℓ＜5m	－200				
							ℓ≧5m	法長－4%				
				2	掘削工 （面管理の場合）			平均値	個々の計測値	１．３次元データによる出来形管理を実施する場合、発注者が指定する基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 ２．個々の計測値の規格値には計測精度として±50㎜が含まれている。 ３．計測は平場面と法面（小段を含む）の全面とし、全ての点で設計面との標高較差または水平較差を算出する。計測密度は１点／m2（平面投影面積当たり）以上とする。 ４．法肩、法尻から水平方向に±５cm以内に存在する計測点は、標高較差の評価から除く。同様に、標高方向に±５cm以内にある計測点は水平較差の評価から除く。 ５．評価する範囲は、連続する一つの面とすることを基本とする。規格値が変わる場合は、評価区間を分割するか、あるいは規格値の条件の最も厳しい値を採用する。		3-2-1-6
						平場	標高較差	±50	±150			
						法面（小段含む）	水平または標高較差	±70	±160			

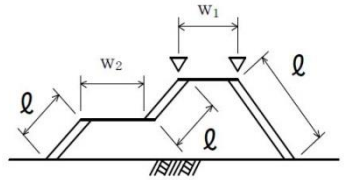
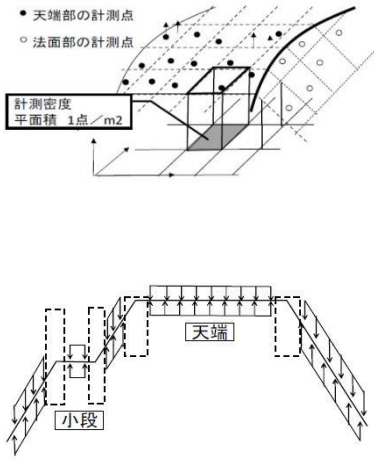
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値		測定基準	測定箇所	摘要
3 森林土木工事共通編	2 土工	1 適用	7	1	盛土工	基準高 ▽		－50		施工延長40mにつき１箇所、延長40m以下のものは１施工箇所につき２箇所。		3-2-1-7
						法長ℓ	ℓ＜5m	－100				
							ℓ≧5m	法長－2%				
						幅 w_1, w_2		－100				
				2	盛土工（面管理の場合）			平均値	個々の計測値	１．３次元データによる出来形管理を実施する場合、発注者が指定する基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 ２．個々の計測値の規格値には計測精度として±50㎜が含まれている。 ３．計測は天端面と法面（小段を含む）の全面とし、全ての点で設計面との標高較差を算出する。計測密度は１点／m2（平面投影面積当たり）以上とする。 ４．法肩、法尻から水平方向に±５cm以内に存在する計測点は、標高較差の評価から除く。 ５．評価する範囲は、連続する一つの面とすることを基本とする。規格値が変わる場合は、評価区間を分割するか、あるいは規格値の条件の最も厳しい値を採用する。		3-2-1-7
						天端	標高較差	-50	-150			
						法面 4割＜勾配	標高較差	-50	-170			
						法面 4割≧ 勾配（小段含む）	標高較差	-60	-170			
						※ただし、ここでの勾配は、鉛直方向の長さ１に対する、水平方向の長さＸをＸ割と表したもの						

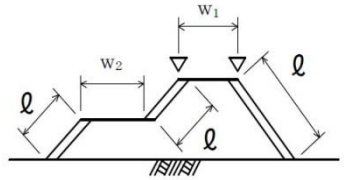
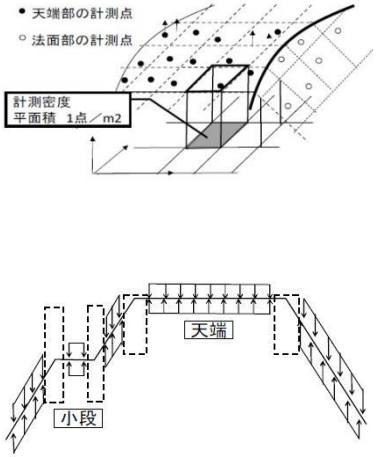
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 森林土木工事共通編	2 土工	1 適用	8		盛土補強工（補強土（テールアルメ）壁工法）（多数アンカー式補強土工法）（ジオテキスタイルを用いた補強土工法）	基準高 ▽		－50	施工延長40mにつき１ヶ所、延長40m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所。		3-2-1-8
						厚さ t		－50			
						控え長さ		設計値以上			
3 森林土木工事共通編	2 土工	1 適用	9		法面整形工（盛土部）	厚さ t		※－30	施工延長40mにつき１ヶ所、延長40m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所、法の中央で測定。 ※土羽打ちのある場合に適用。		3-2-1-9
3 森林土木工事共通編	2 土工	1 適用	10		堤防天端工	厚さ t	t ＜15cm	－25	幅は、施工延長40mにつき１ヶ所、延長40m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所。 厚さは、施工延長200mにつき１ヶ所、200m以下は２ヶ所、中央で測定。		3-2-1-10
							t ≧15cm	－50			
						幅	w	－100			

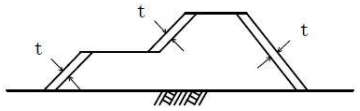
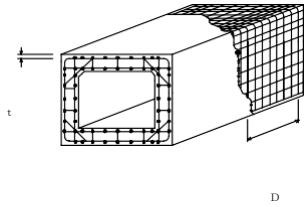
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値		測定基準	測定箇所	摘要
3 森林土木工事共通編	2 土工	1 適用	11	1	残土処理工	基準高 ▽		±50		施工延長40mにつき１箇所、延長40m以下のものは１施工箇所につき２箇所。		3-2-1-11
						法長ℓ	ℓ＜5m	－100				
							ℓ≧5m	法長－2%				
						幅	w1, w2	－100				
				2	残土処理工 （面管理の場合）			平均値	個々の計測値	１．３次元データによる出来形管理を実施する場合、発注者が指定する基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 ２．個々の計測値の規格値には計測精度として±50㎜が含まれている。 ３．計測は天端面と法面（小段を含む）の全面とし、全ての点で設計面との標高較差を算出する。計測密度は１ 点／m2（平面投影面積当たり）以上とする。 ４．法肩、法尻から水平方向に±５cm 以内に存在する計測点は、標高較差の評価から除く。 ５．評価する範囲は、連続する一つの面とすることを基本とする。規格値が変わる場合は、評価区間を分割するか、あるいは規格値の条件の最も厳しい値を採用する。		3-2-1-11
						天端	標高較差	±50	±150			
						法面（小段含む）	標高較差	±80	±190			

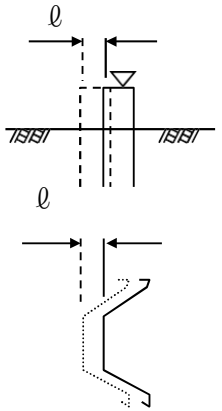
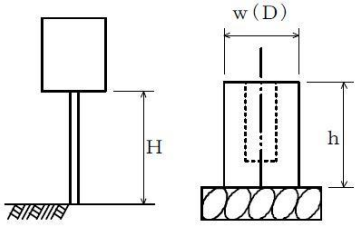
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値		測定基準	測定箇所	摘要
3 森林土木工事共通編	2 土工	1 適用	12 13	1	路体盛土工 路床盛土工	基準高 ▽		±50		施工延長40mにつき１箇所、延長40m以下のものは１施工箇所につき２箇所。		3-2-1-12 3-2-1-13
						法長ℓ	ℓ＜5m	－100				
							ℓ≧5m	法長－2%				
						幅	w_1, w_2	－100				
				2	路体盛土工 路床盛土工 （面管理の場合）			平均値	個々の計測値	１．３次元データによる出来形管理を実施する場合、発注者が指定する基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 ２．個々の計測値の規格値には計測精度として±50㎜が含まれている。 ３．計測は天端面と法面（小段を含む）の全面とし、全ての点で設計面との標高較差を算出する。計測密度は１点／m2（平面投影面積当たり）以上とする。 ４．法肩、法尻から水平方向に±５cm以内に存在する計測点は、標高較差の評価から除く。 ５．評価する範囲は、連続する一つの面とすることを基本とする。規格値が変わる場合は、評価区間を分割するか、あるいは規格値の条件の最も厳しい値を採用する。		3-2-1-12 3-2-1-13
						天端	標高較差	±50	±150			
						法面（小段含む）	標高較差	±80	±190			

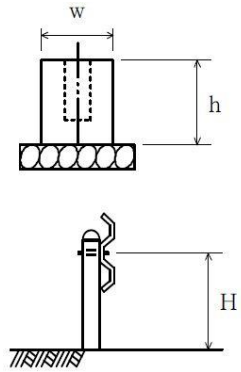
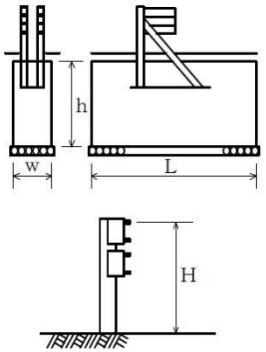
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 森林土木工事共通編	2 土工	1 適用	14		法面整形工 （盛土部）	厚さ t	※－30	施工延長40mにつき１ヶ所、延長40m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所。法の中央で測定。 ※土羽打ちのある場合に適用。		3-2-1-14
3 森林土木工事共通編	3 無筋・鉄筋コンクリート	6 鉄筋工	4		組立て	平均間隔 d	± φ	$d = \frac{D}{n-1}$ D：ｎ本間の延長 ｎ：10本程度とする φ：鉄筋径 工事の規模に応じて、１リフト、１ロット当たりに対して各面で一箇所以上測定する。最小かぶりは、コンクリート標準示方書（設計編：標準 7編 2章 2.1）参照。ただし、道路橋示方書の適用を受ける橋については、道路橋示方書(Ⅲコンクリート橋編 6.6)による。 注1）重要構造物 かつ主鉄筋について適用する。 注2）橋梁コンクリート床版桁（ＰＣ橋含む）の鉄筋については、第3編3-2-18-2床版工を適用する。 注3）新設のコンクリート構造物（橋梁上・下部工および重要構造物である内空断面積25 ㎡以上のボックスカルバート（工場製作のプレキャスト製品は全ての工種において対象外））の鉄筋の配筋状況及びかぶりについては、「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定要領」も併せて適用する。		3-3-6-4
						かぶり t	± φかつ 最小かぶり 以上			

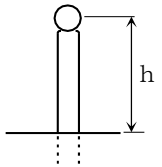
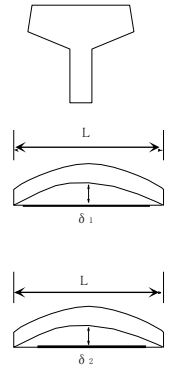
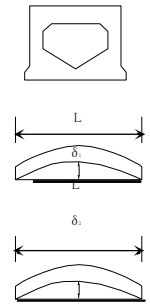
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	3 共通的工種	4		矢板工〔指定仮設・任意仮設は除く〕 （鋼矢板） （軽量鋼矢板） （コンクリート矢板） （広幅鋼矢板） （可とう鋼矢板）	基準高 ▽		±50	基準高は施工延長40mにつき１ヶ所、延長40m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所。 変位は、施工延長20mにつき１ヶ所、延長20m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所。		3-4-3-4
						根入長		設計値以上			
						変位 ℓ		100			
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	3 共通的工種	5		縁石工 （縁石・アスカーブ）	延長 L		－200	１ヶ所／１施工箇所		3-4-3-5
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	3 共通的工種	6		小型標識工	設置高さ H		設計値以上	１ヶ所／１基		3-4-3-6
						基礎	幅w（D）	－30	基礎１基毎		
							高さ h	－30			
							根入れ長	設計値以上			

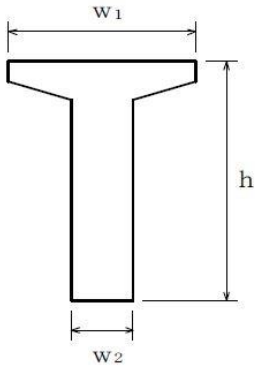
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	3 共通的工種	7	1	路側防護柵工 （ガードレール）	基礎	幅 w	－30	1ヶ所／施工延長40m、40m以下のものは、2ヶ所／1施工箇所。		3-4-3-7
							高 さ h	－30			
						ビーム取付高 H		＋30 －20	1ヶ所／1施工箇所		
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	3 共通的工種	7	2	路側防護柵工 （ガードケーブル）	基礎	幅 w	－30	1ヶ所／1基礎毎		3-4-3-7
							高 さ h	－30			
							延 長 L	－100			
						ケーブル取付高 H		＋30 －20	1ヶ所／1施工箇所		
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	3 共通的工種	8		区画線工	厚 さ t （溶融式のみ）		設計値以上	各線種毎に、1ヶ所テストピースにより測定。		3-4-3-8
						幅 w		設計値以上			

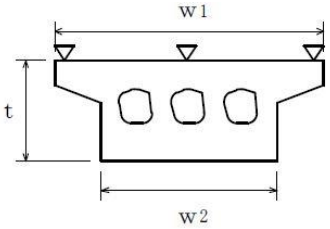
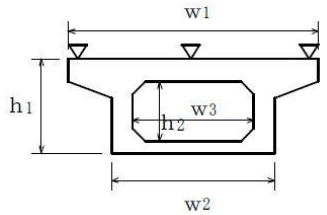
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所		摘要
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	3 共通的工種	9		道路付属物工 （視線誘導標） （距離標）	高さ h	±30	1ヶ所／10本 10本以下の場合は、2ヶ所測定。			3-4-3-9
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	3 共通的工種	10	1	プレテンション桁製作工（購入工） （けた橋）	桁長L（m）	±L／1000	桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JISマーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行するJISに基づく試験成績表に替えることができる。	断面図 側面図 平面図		3-4-3-10
						断面の外形寸法	±5				
						橋桁のそり δ1	±8				
						横方向の曲がり δ2	±10				
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	3 共通的工種	10	2	プレテンション桁製作工（購入工） （スラブ桁）	桁長 L（m）	±10…L≦10m ±L／1000…L＞10m	桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JISマーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行するJISに基づく試験成績表に替えることができる。	断面図 側面図 平面図		3-4-3-10
						断面の外形寸法	±5				
						橋桁のそり δ1	±8				
						横方向の曲がり δ2	±10				

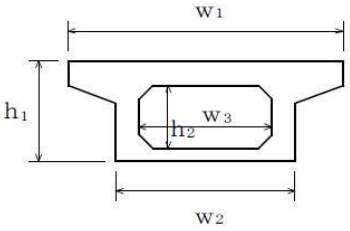
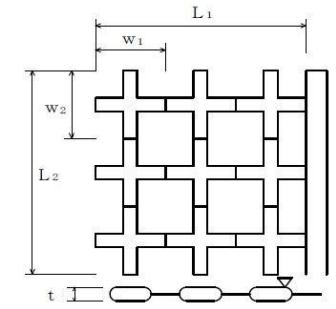
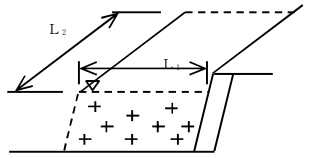
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	3 共通的工種	11	1	ポストテンション桁製作工	幅（上）w_1	＋10 －5	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の３ヶ所とする。 なお、JISマーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行するJISに基づく試験成績表に替えることができる。 ℓ：支間長（m）		3-4-3-11 注）新設のコンクリート構造物（橋梁上・下部工および重要構造物である内空断面積25㎡以上のボックスカルバート（工場製作のプレキャスト製品は全ての工種において対象外））の鉄筋の配筋状況及びかぶりについては、「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定要領」も併せて適用する
						幅（下）w_2	±5			
						高　さ　h	＋10 －5			
						桁　長　ℓ 支間長	ℓ＜15…±10 ℓ≧15… ±（ℓ－5）かつ －30mm以内			
						横方向最大タワミ	0.8ℓ			
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	3 共通的工種	11	2	プレキャストセグメント桁製作工（購入工）	桁　長　ℓ	—	桁全数について測定。桁断面寸法測定箇所は、図面の寸法表示箇所で測定。		3-4-3-11
						断面の外形寸法（mm）	—			
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	3 共通的工種	12		プレキャストセグメント主桁組立工	桁　長　ℓ 支間長	ℓ＜15…±10 ℓ≧15… ±（ℓ－5）かつ －30mm以内	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の３ヶ所とする。 ℓ：支間長（m）		3-4-3-12
						横方向最大タワミ	0.8ℓ			

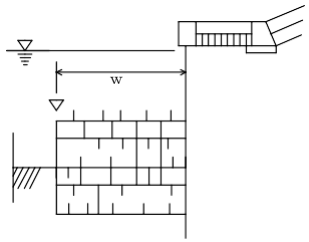
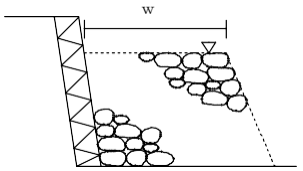
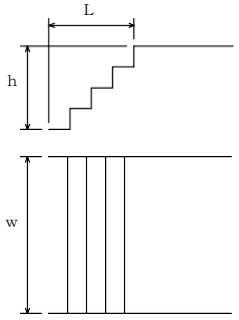
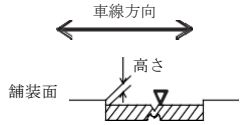
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	3 共通的工種	13		ＰＣホロースラブ製作工	基準高 ▽	±20	桁全数について測定。 基準高は、１径間当たり２ヶ所（支点付近）で１箇所当たり両端と中央部の３点、幅及び厚さは１径間当たり両端と中央部の３ヶ所。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第３編3-4-16-2床版工に準ずる。 ℓ：桁長（m）		3-2-3-13 注）新設のコンクリート構造物（橋梁上・下部工および重要構造物である内空断面積25㎡以上のボックスカルバート（工場製作のプレキャスト製品は全ての工種において対象外））の鉄筋の配筋状況及びかぶりについては、「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定要領」も併せて適用する
						幅 w_1, w_2	−5～＋30			
						厚さ t	−10～＋20			
						桁長 ℓ	ℓ＜15…±10 ℓ≧15… ±（ℓ−5）かつ −30㎜以内			
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	3 共通的工種	14	1	ＰＣ箱桁製作工	基準高 ▽	±20	桁全数について測定。 基準高は、１径間当たり２ヶ所（支点付近）で１箇所当たり両端と中央部の３点、幅及び高さは１径間当たり両端と中央部の３ヶ所。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第３編3-4-16-2床版工に準ずる。 ℓ：桁長（m）		3-4-3-14 注）新設のコンクリート構造物（橋梁上・下部工および重要構造物である内空断面積25㎡以上のボックスカルバート（工場製作のプレキャスト製品は全ての工種において対象外））の鉄筋の配筋状況及びかぶりについては、「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定要領」も併せて適用する
						幅（上） w_1	−5～＋30			
						幅（下） w_2	−5～＋30			
						内空幅 w_3	±5			
						高さ h_1	＋10 −5			
						内空高さ h_2	＋10 −5			
						桁長 ℓ	ℓ＜15…±10 ℓ≧15… ±（ℓ−5）かつ −30㎜以内			

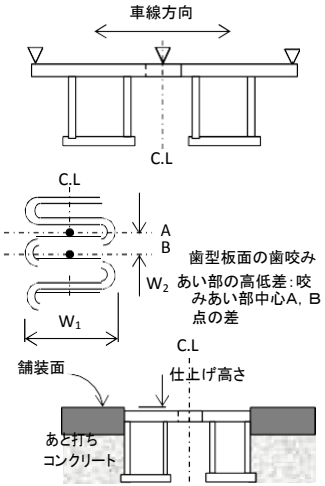
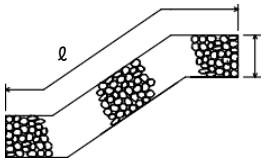
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	3 共通的工種	14	2	ＰＣ押出し箱桁製作工	幅（上） w_1		－5～＋30	桁全数について測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の３ヶ所とする。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第３編3-4-16-2床版工に準ずる。 ℓ：桁長（m）		3-4-3-14 注）新設のコンクリート構造物（橋梁上・下部工および重要構造物である内空断面積25㎡以上のボックスカルバート（工場製作のプレキャスト製品は全ての工種において対象））の鉄筋の配筋状況及びかぶりについては、「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定要領」も併せて適用する
						幅（下） w_2		－5～＋30			
						内空幅 w_3		±5			
						高さ h_1		＋10 －5			
						内空高さ h_2		＋10 －5			
						桁長 ℓ		ℓ＜15…±10 ℓ≧15… ±（ℓ－5）かつ －30mm以内			
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	3 共通的工種	15		根固めブロック工	層積	基準高▽	±100	施工延長40mにつき１ヶ所、延長40m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所。		3-4-3-15
							厚さｔ	－20	幅、厚さは40個につき1ヶ所測定。		
							幅W_1，W_2	－20			
							延長L_1，L_2	－200	１施工箇所毎		
						乱積	基準高▽	±ｔ／2	施工延長40mにつき１ヶ所、延長40m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所。	 ｔは根固めブロックの高さ	
							延長L_1，L_2	－ｔ／2	１施工箇所毎		

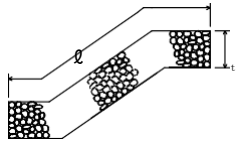
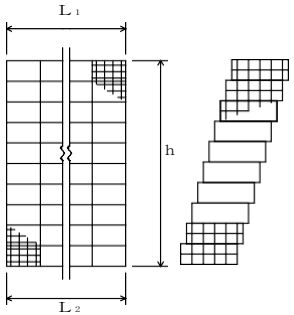
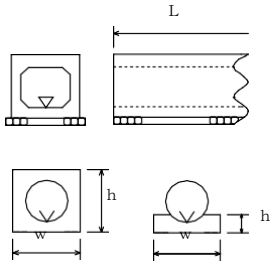
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	3 共通的工種	16		沈床工	基準高 ▽	±150	1組毎		3-4-3-16
						幅 w	±300			
						延長 L	−200			
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	3 共通的工種	17		捨石工	基準高 ▽	−100	施工延長40mにつき1ヶ所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		3-4-3-17
						幅 w	−100			
						延長 L	−200			
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	3 共通的工種	19		階段工	幅 w	−30	1回／1施工箇所		3-4-3-19
						高さ h	−30			
						長さ L	−30			
						段数	±0段			
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	3 共通的工種	21	1	伸縮装置工（ゴムジョイント）	据付け高さ	±3	車道端部及び中央部付近の3 点を測定。 表面の凹凸は長手方向（橋軸直角方向）に3mの直線定規で測って凹凸が3mm以下		3-4-3-21
						表面の凹凸	3			
						仕上げ高さ	舗装面に対し0～−2			

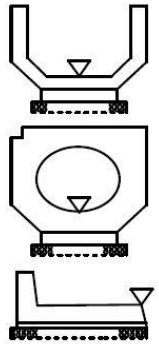
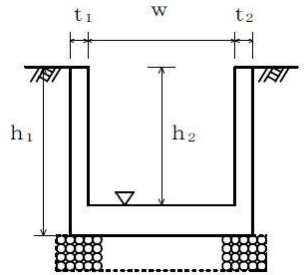
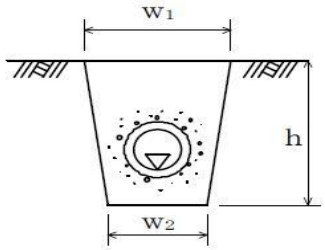
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	3 共通的工種	21	2	伸縮装置工（鋼製フィンガージョイント）	高さ	据付け高さ	±3	高さについては車道端部、中央部において車線方向に各３点計９点 表面の凹凸は長手方向（橋軸直角方向）に3mの直線定規で測って凹凸が3mm以下 歯咬み合い部は車道端部、中央部の計3点		3-4-3-21
							車線方向各点 誤差の相対差	3			
						表面の凹凸		3			
						歯型板面の歯咬み合い部の高低差		2			
						歯咬み合い部の縦方向間隔W_1		±2			
						歯咬み合い部の横方向間隔W_2		±5			
						仕上げ高さ		舗装面に対し0～－2			
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	3 共通的工種	23	1	環境配慮型護岸工（巨石張り,巨石積み）	基準高 ▽		±500	施工延長40mにつき１ヶ所、延長40m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所。		3-4-3-23
						法長 ℓ		－200			
						延長 L		－200			
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	3 共通的工種	23	2	環境配慮型護岸工（かごマット）	法長 ℓ		－100	施工延長40mにつき１ヶ所、延長40m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所。		3-4-3-23
						厚さ t		－0.2ｔ			
						延長 L		－200			

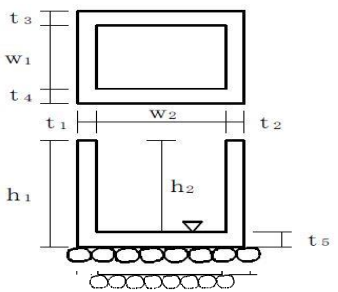
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	3 共通的工種	24	1	羽口工 （じゃかご）	法長 ℓ	ℓ＜3m	－50	施工延長40mにつき１ヶ所、延長40m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所。		3-4-3-24
							ℓ≧3m	－100			
						厚さ t		－50			
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	3 共通的工種	24	2	羽口工 （ふとんかご、 かご枠）	高さ h		－100	施工延長40mにつき１ヶ所、延長40m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所。		3-4-3-24
						延長 L_1, L_2		－200			
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	3 共通的工種	25		プレキャストカルバート工 （プレキャストボックス工） （プレキャストパイプ工）	基準高 ▽		±30	施工延長40mにつき１ヶ所、延長40m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所。 ※印は、現場打部分のある場合。		3-4-3-25
						※幅 w		－50			
						※高さ h		－30			
						延長 L		－200	１施工箇所毎		

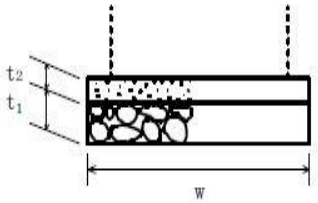
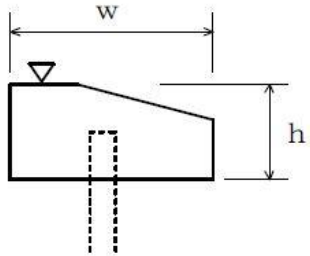
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	3 共通的工種	26	1	側溝工 （プレキャストU型側溝） （L型側溝工） （自由勾配側溝） （管渠）	基準高 ▽	±30	施工延長40mにつき1ヶ所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		3-4-3-26
						延長 L	−200	1ヶ所／1施工箇所		
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	3 共通的工種	26	2	側溝工 （場所打水路工）	基準高 ▽	±30	施工延長40mにつき1ヶ所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		3-4-3-26
						厚さ t_1, t_2	−20			
						幅 w	−30			
						高さ h_1, h_2	−30			
						延長 L	−200	1施工箇所毎		
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	3 共通的工種	26	3	側溝工 （暗渠工）	基準高 ▽	±30	施工延長40mにつき1ヶ所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		3-4-3-26
						幅 w_1, w_2	−50			
						深さ h	−30			
						延長 L	−200	1施工箇所毎		

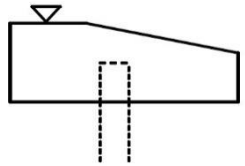
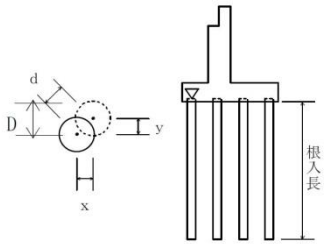
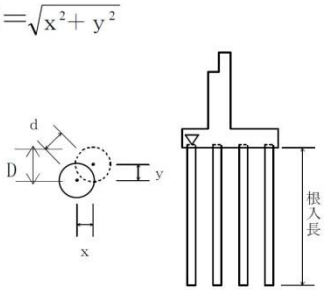
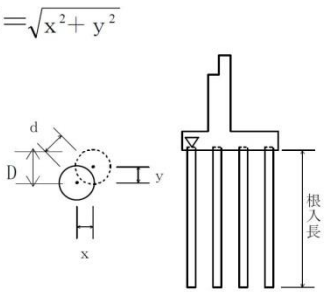
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	3 共通的工種	27		集水桝工	基準高 ▽	±30	1ヶ所毎 ※は、現場打部分のある場合		3-4-3-27
						※厚さ t_1～t_5	−20			
						※幅 w_1, w_2	−30			
						※高さ h_1, h_2	−30			
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	3 共通的工種	28		現場塗装工	塗膜厚	a．ロットの塗膜厚平均値は、目標塗膜厚合計値の90%以上。 b．測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の 70 %以上。 c．測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20 %以下。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。	塗装終了時に測定。 1ロットの大きさは500㎡とする。 1ロット当たりの測定数は25点とし、各点の測定は5回行い、その平均値をその点の測定値とする。ただし、1 ロットの面積が200㎡に満たない場合は10㎡ごとに1点とする。		3-4-3-28

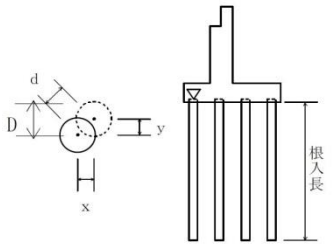
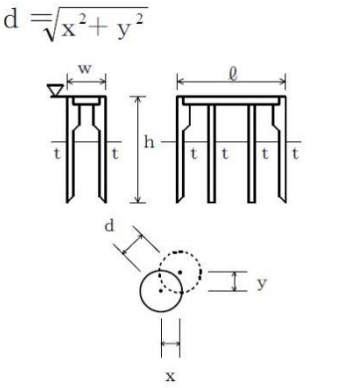
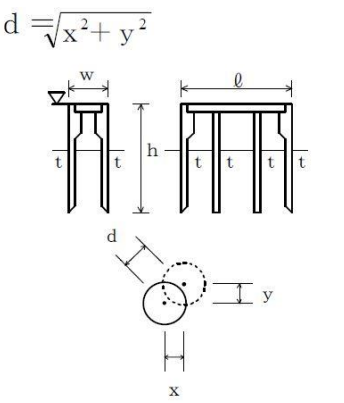
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	4 基礎工	1		一般事項 (切込砂利) (砕石基礎工) (割ぐり石基礎工) (均しコンクリート)	幅 w	設計値以上	施工延長40mにつき１ヶ所、延長40m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所。		3-4-4-1
						厚さ t_1, t_2	−30			
						延長 L	各構造物の規格値による			
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	4 基礎工	3	1	基礎工（護岸） (現場打)	基準高 ▽	±30	施工延長40mにつき１ヶ所、延長40m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所。		3-4-4-3
						幅 w	−30			
						高さ h	−30			
						延長 L	−200			

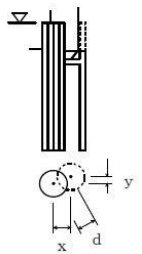
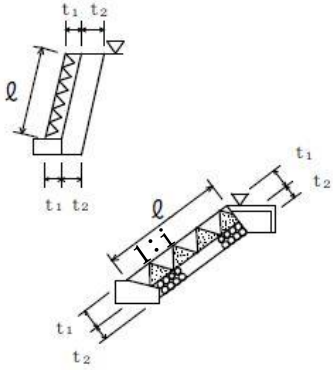
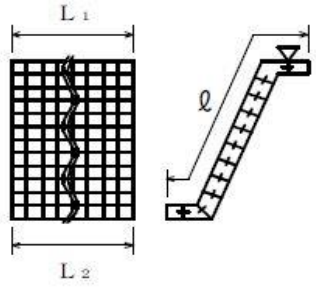
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	4 基礎工	3	2	基礎工（護岸） （プレキャスト）	基準高 ▽	±30	施工延長40mにつき１ヶ所、延長40m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所。		3-4-4-3
						延長 L	－200			
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	4 基礎工	4	1	既製杭工 （既製コンクリート杭） （鋼管杭） （H鋼杭）	基準高 ▽	±50	全数について杭中心で測定。	$d=\sqrt{x^2+y^2}$ 	3-4-4-4
						根入長	設計値以上			
						偏心量 d	D／4以内かつ100以内			
						傾斜	1／100以内			
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	4 基礎工	4	2	既製杭工 （鋼管ソイルセメント杭）	基準高 ▽	±50	全数について杭中心で測定。	$d=\sqrt{x^2+y^2}$ 	3-4-4-4
						根入長	設計値以上			
						偏心量 d	100以内			
						傾斜	1／100以内			
						杭径 D	設計値以上			
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	4 基礎工	5		場所打杭工	基準高 ▽	±50	全数について杭中心で測定。	$d=\sqrt{x^2+y^2}$ 	3-4-4-5
						根入長	設計値以上			
						偏心量 d	100以内			
						傾斜	1／100以内			
						杭径 D	設計径（公称径）－30以上			

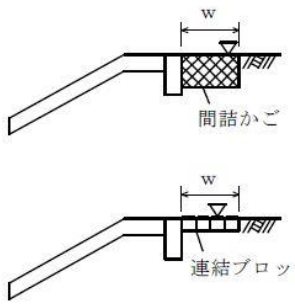
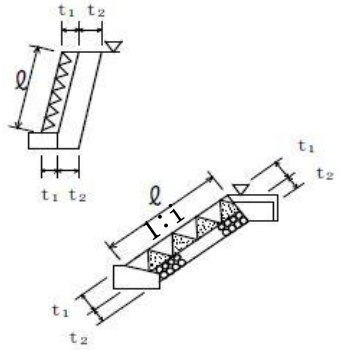
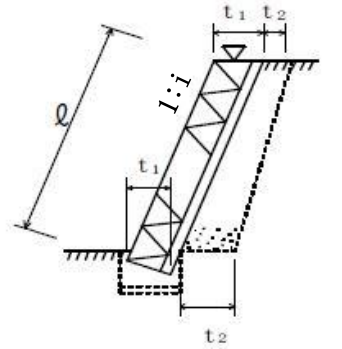
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	4 基礎工	6		深礎工	基準高 ▽	±50	全数について杭中心で測定。	$d=\sqrt{x^2+y^2}$ 	3-4-4-6
						根入長	設計値以上			
						偏心量 d	150以内			
						傾斜	1／50以内			
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	4 基礎工	7		オープンケーソン基礎工	基準高 ▽	±100	壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打設ロットごとに測定。	$d=\sqrt{x^2+y^2}$ 	3-4-4-7
						ケーソンの長さℓ	－50			
						ケーソンの幅 w	－50			
						ケーソンの高さh	－100			
						ケーソンの壁厚 t	－20			
						偏心量 d	300以内			
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	4 基礎工	8		ニューマチックケーソン基礎工	基準高 ▽	±100	壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打設ロットごとに測定。	$d=\sqrt{x^2+y^2}$ 	3-4-4-8
						ケーソンの長さℓ	－50			
						ケーソンの幅 w	－50			
						ケーソンの高さh	－100			
						ケーソンの壁厚 t	－20			
						偏心量 d	300以内			

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	4 基礎工	9		鋼管矢板基礎工	基準高 ▽	±100	基準高は、全数を測定。 偏心量は、１基ごとに測定。	$d=\sqrt{x^2+y^2}$ 	3-4-4-9
						根入長	設計値以上			
						偏心量 d	300以内			
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	5 石・ブロック積張工	3	1	コンクリートブロック工 （コンクリートブロック積） （コンクリートブロック張り）	基準高 ▽	±50	施工延長40mにつき１ヶ所、延長40m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所。 厚さは上端部及び下端部の２ヶ所を測定。		3-4-5-3
						法長ℓ ℓ＜3m	－50			
						法長ℓ ℓ≧3m	－100			
						厚さ（ブロック積張）t_1	－20			
						厚さ（裏込）t_2	－30			
						延長 L	－200			
						のり勾配 i	±0.3分			
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	5 石・ブロック積張工	3	2	コンクリートブロック工 （連節ブロック張り）	基準高 ▽	±50	施工延長40mにつき１ヶ所、延長40m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所。		3-4-5-3
						法長 ℓ	－100			
						延長 L_1, L_2	－200			

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	5 石・ブロック積張工	3	3	コンクリートブロック工（天端保護ブロック）	基準高 ▽		±50	施工延長40mにつき１ヶ所、延長40m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所。		3-4-5-3
						幅	w	−100			
						延長	L	−200			
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	5 石・ブロック積張工	4		緑化ブロック工	基準高 ▽		±50	施工延長40mにつき１ヶ所、延長40m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所。 厚さは上端部及び下端部の２ヶ所を測定。		3-4-5-4
						法長ℓ	ℓ＜3m	−50			
							ℓ≧3m	−100			
						厚さ(ブロック) t1		−50			
						厚さ（裏込） t2		−50			
						延長	L	−200			
						のり勾配	i	±0.3分			
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	5 石・ブロック積(張)工	5		石積（張）工	基準高 ▽		±50	施工延長40mにつき１ヶ所、延長40m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所。 厚さは上端部及び下端部の２ヶ所を測定。		3-4-5-5
						法長ℓ	ℓ＜3m	−50			
							ℓ≧3m	−100			
						厚さ(石積・張) t_1		−50			
						厚さ（裏込） t_2		−50			
						延長	L	−200			
						のり勾配	i	±0.3分			

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	6 一般舗装工	7	1	アスファルト舗装工 （下層路盤工）	基準高▽	±50	基準高、幅は、延長40ｍにつき１ヶ所の割合で測定する。 延長40m以下のものは、2箇所測定する。		3-4-6-7
						厚　さ	－45			
						幅	－50			
							ただし、厚さの測定値の平均は、-15以内とする。			
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	6 一般舗装工	7	2	アスファルト舗装工 （上層路盤工） 粒度調整路盤工	厚　さ	－30	基準高、幅は、延長40ｍにつき１ヶ所の割合で測定する。 延長40m以下のものは、2箇所測定する。		3-4-6-7
						幅	－50			
							ただし、厚さの測定値の平均は、-10以内とする。			

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	6 一般舗装工	7	3	アスファルト舗装工 （上層路盤工） セメント（石灰）安定処理工	厚さ	－30	厚さは、500 ㎡に１個の割合でコアーを採取もしくは堀り起こして測定する。 幅は、延長40mにつき１ヶ所の割合で測定する。 延長40m以下のものは２箇所測定する。		3-4-6-7
						幅	－50			
							ただし、厚さの測定値の平均は、-10以内とする。			
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	6 一般舗装工	7	4	アスファルト舗装工 （加熱アスファルト安定処理工）	厚さ	－20	厚さは、500 ㎡に１個の割合でコアーを採取して測定する。 幅は、延長40mにつき１ヶ所の割合で測定する。 延長40m以下のものは２箇所測定する。		3-4-6-7
						幅	－50			
							ただし、厚さの測定値の平均は、－７以内とする。			

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	6 一般舗装工	7	6	アスファルト舗装工 （基層工・表層工）	厚さ	－9	厚さは、500 ㎡に１個の割合でコアーを採取して測定する。 幅は、延長40ｍにつき１ヶ所の割合で測定する。 延長40ｍ以下のものは２箇所測定する。		3-4-6-7
						幅	－25			
						平坦性	3mﾌﾟﾛﾌｨﾙﾒｰﾀｰ (σ)2.4mm以下 直読式(足付き) (σ)1.75mm以下			
							ただし、厚さの測定値の平均は、-3以内とする。			

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	6 一般舗装工	8	1	コンクリート舗装工 （下層路盤工）	基準高▽	±50	基準高、幅は、延長40mにつき１ヶ所の割合で測定する。 延長40m以下のものは２箇所測定する。		3-4-6-8
						厚　さ	－45			
						幅	－50			
							ただし、厚さの測定値の平均は-15以内とする。			
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	6 一般舗装工	8	2	コンクリート舗装工 （粒度調整路盤工）	厚　さ	－30	基準高、幅は、延長40mにつき１ヶ所の割合で測定する。 延長40m以下のものは２箇所測定する。		3-4-6-8
						幅	－50			
							ただし、厚さの測定値の平均は-８以内とする。			

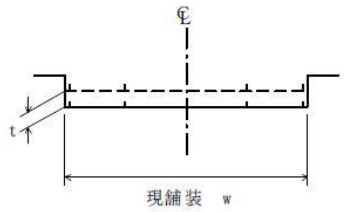
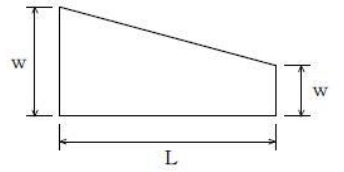
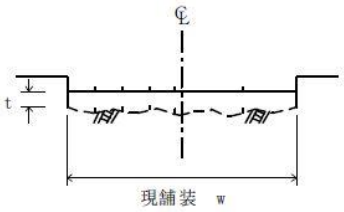
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	6 一般舗装工	8	3	コンクリート舗装工 （セメント（石灰・瀝青）安定処理工）	厚さ	－30	厚さは、500 ㎡に１個の割合でコアーを採取もしくは掘り起こして測定する。 幅は、延長40mにつき１ヶ所の割合で測定する。 延長40m以下のものは２箇所測定する。		3-4-6-8
						幅	－50			
							ただし、厚さの測定値の平均は、-8以内とする。			
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	6 一般舗装工	8	4	コンクリート舗装工 （アスファルト中間層）	厚さ	－12	厚さは、500 ㎡に１個の割合でコアーを採取して測定する。 幅は、延長40mにつき１ヶ所の割合で測定する。 延長40m以下のものは２箇所測定する。		3-4-6-8
						幅	－25			
							ただし、厚さの測定値の平均は、－３以内とする。			

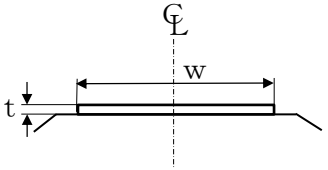
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	6 一般舗装工	8	5	コンクリート舗装工 （コンクリート舗装版工）	厚さ	－10	厚さは、500 ㎡に１個の割合でコアーを採取して測定する。 幅は、延長40mにつき１ヶ所の割合で測定する。 延長40m以下のものは２箇所測定する。		3-4-6-8
							ただし、厚さの測定値の平均は、-3.5以内とする。			
						幅	－25			
						平坦性	コンクリートの硬化後 3mプロフィルメーターにより機械舗設の場合 (σ)2.4mm以下 人力舗設の場合 (σ)3mm以下			
						目地段差	±2	隣接する各目地に対して、道路中心線及び端部で測定。		

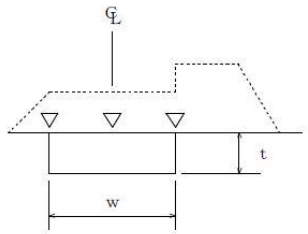
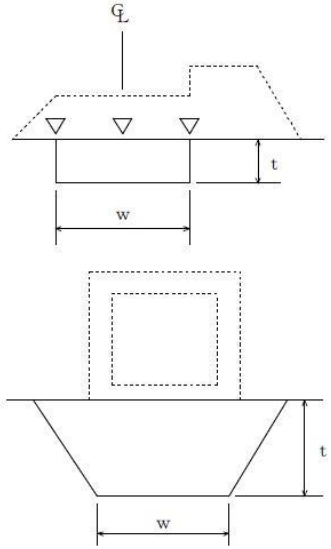
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値 個々の測定値（X）	規格値 平均の測定値（X10）	測定基準	測定箇所	摘要
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	6 一般舗装工	9		路面切削工	厚さ t		−7	−2	厚さは40m毎に現舗装高切削後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 延長40m未満の場合は、２ヶ所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。 測定方法は自動横断測定法によることが出来る。		3-4-6-9
						幅 w		−25	—			
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	6 一般舗装工	10		舗装打換え工	路盤工	幅 w	−50		各層毎１ヶ所／１施工箇所		3-4-6-10
							厚さ t	該当工種				
						舗設工	幅 w	−25				
							厚さ t	該当工種				
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	6 一般舗装工	11		オーバーレイ工	厚さ t		−9		厚さは40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長80m毎に１ヶ所の割とし、延長80m未満の場合は、２ヶ所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。		3-4-6-11
						幅 w		−25				
						平坦性		—	3mﾌﾟﾛﾌｨﾙﾒｰﾀｰ（σ）2.4mm以下直読式(足付き) （σ）1.75mm以下			

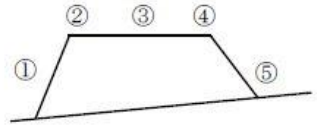
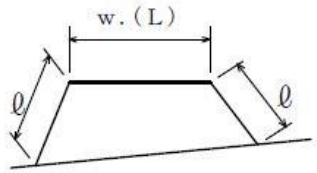
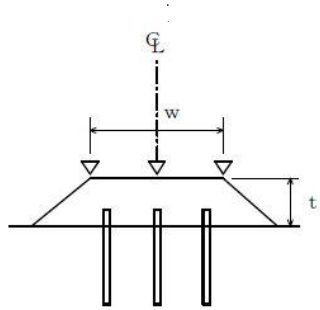
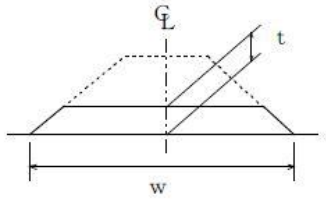
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	6 一般舗装工	14		砂利路盤工	幅 w	−50	施工延長40mにつき1箇所の割合で測定する。 延長40m以下のものは２箇所測定する。		3-4-6-14
						厚さ t	−10%			

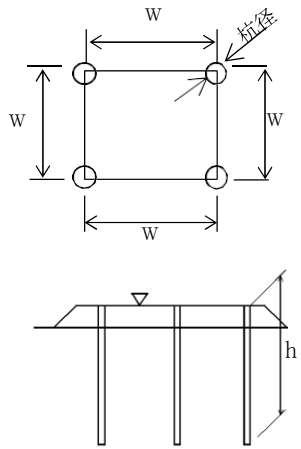
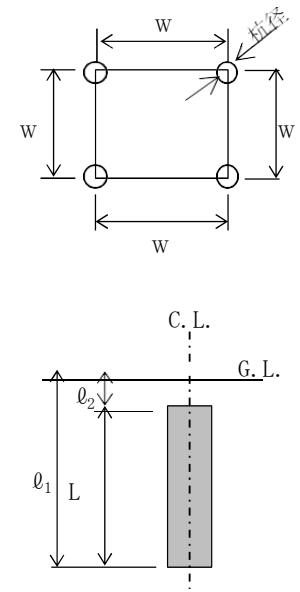
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	7 地盤改良工	2		路床安定処理工	基準高 ▽	±50	延長40m毎に１ヶ所の割で測定。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。 厚さは中心線及び端部で測定。		3-4-7-2
						施工厚さ t	−50			
						幅 w	−100			
						延長 L	−200			
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	7 地盤改良工	3		置換工	基準高 ▽	±50	施工延長40mにつき１ヶ所、延長40m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所。 厚さは中心線及び端部で測定。		3-4-7-3
						置換厚さ t	−50			
						幅 w	−100			
						延長 L	−200			

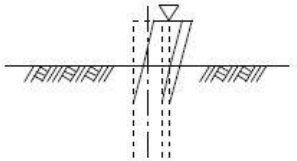
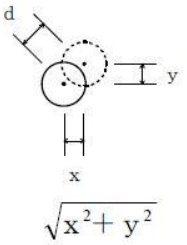
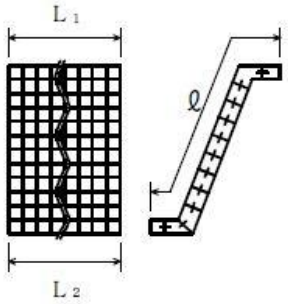
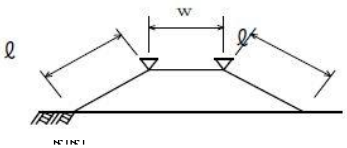
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	7 地盤改良工	4		表層安定処理工 （サンドマット海上）	基準高 ▽	特記仕様書に明示	施工延長10mにつき、１測点当たり５点以上測定。		3-4-7-4
						法長 ℓ	－500			
						天端幅 w	－300	w．（L）は施工延長40mにつき１ヶ所、80m以下のものは１施工箇所につき３箇所。 （L）はセンターライン及び表裏法肩で行う。		
						天端延長 L	－500			
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	7 地盤改良工	5		パイルネット工	基準高 ▽	±50	施工延長40mにつき１ヶ所。 厚さは中心線及び両端で掘り起こして測定。 杭については、当該杭の項目に準ずる。		3-4-7-5
						厚さ t	－50			
						幅 w	－100			
						延長 L	－200			
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	7 地盤改良工	6		サンドマット工	施工厚さ t	－50	施工延長40mにつき１ヶ所。 厚さは中心線及び両端で掘り起こして測定。		3-4-7-6
						幅 w	－100			
						延長 L	－200			

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	7 地盤改良工	7 8		バーチカルドレーン工 （サンドドレーン工） （ペーパードレーン工） （袋詰式サンドドレーン工） 締固め改良工 （サンドコンパクションパイル工）	位置・間隔w	±100	100本に１ヶ所。 100本以下は２ヶ所測定。１ヶ所に４本測定。 ただし、ペーパードレーンの杭径は対象外とする。	 ※余長は、適用除外	3-4-7-7 3-4-7-8
						杭径 D	設計値以上			
						打込長さ h	設計値以上	全本数		
						サンドドレーン、袋詰式サンドドレーン、サンドコンパクションパイルの砂投入量	—	全本数 計器管理にかえることができる。		
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	7 地盤改良工	9		固結工 （粉体噴射撹拌工） （高圧噴射撹拌工） （スラリー撹拌工） （生石灰パイル工）	基準高 ▽	－50	100本に１ヶ所。 100本以下は２ヶ所測定。 １ヶ所に４本測定。		3-4-7-9
						位置・間隔w	D／4以内			
						杭径 D	設計値以上			
						深度 L	設計値以上	全本数 $L=\ell_1-\ell_2$ ℓ_1は改良体先端深度 ℓ_2は改良端天端深度		

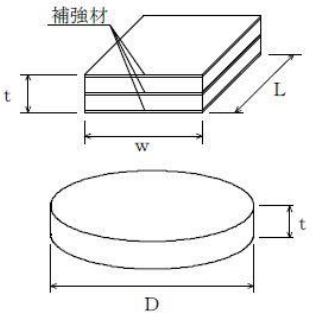
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	10 仮設工	5	1	仮設土留・仮締切工（H鋼杭）（鋼矢板）	基準高 ▽	±100	基準高は施工延長40mにつき１ヶ所。延長40m以下のものは、１施工箇所につき２ヶ所。		3-4-10-5
						根入長	設計値以上			
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	10 仮設工	5	2	仮設土留・仮締切工（アンカー工）	削孔深さ ℓ	設計深さ以上	全数		3-4-10-5
						配置誤差 d	100			
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	10 仮設工	5	3	仮設土留・仮締切工（連節ブロック張り工）	法長 ℓ	−100	施工延長40mにつき１ヶ所、延長40m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所。		3-4-10-5
						延長 L_1 L_2	−200	１施工箇所毎		
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	10 仮設工	5	4	仮設土留・仮締切工（締切盛土）	基準高 ▽	−50	施工延長40mにつき１ヶ所。延長40m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所。		3-4-10-5
						天端幅 w	−100			
						法長 ℓ	−100			

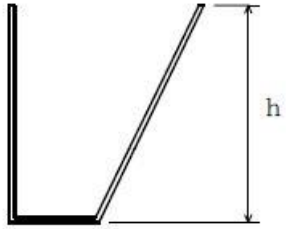
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目			規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	10 仮設工	5	5	仮設土留・仮締切工（中詰盛土）	基準高 ▽			－50	施工延長40mにつき１ヶ所。 延長40m以下のものは、１施工箇所につき２ヶ所。		3-4-10-5
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	12 工場製作工 共通	1	1	鋳造費（金属支承工）	上下部鋼構造物との接合用ボルト孔	孔の直径差		＋2 －0	製品全数を測定。		3-4-12-1
							中心距離	センターボスを基準にした孔位置のずれ				
								≦1000mm	1以下			
								センターボスを基準にした孔位置のずれ				
								＞1000mm	1.5以下			
						アンカーボルト用孔 鋳放し	孔の直径	≦100mm	＋3 －1			
								＞100mm	＋4 －2			
							孔の中心距離		JIS B 0403 CT13			
						センターボス	ボスの直径		＋0 －1			
							ボスの高さ		＋1 －0			

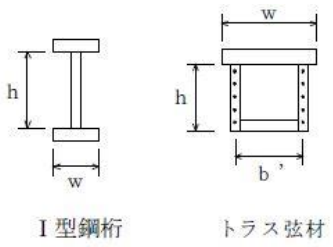
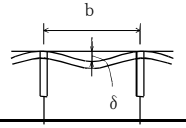
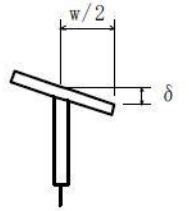
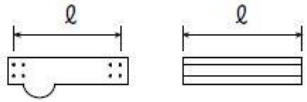
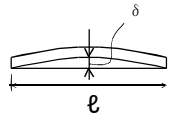
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目			規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	12 工場製作工 共通	1	1	鋳造費（金属支承工）	上沓の橋軸及び直角方向の長さ寸法			JIS B 0403 CT13	製品全数を測定。 ※1）片面削り加工も含む。 ※2）ただし、ソールプレート接触面の橋軸及び橋軸直角方向の長さ寸法に対してはCT13を適用する。		3-4-12-1
						全移動量ℓ	ℓ≦300mm		±2			
							ℓ＞300mm		±ℓ／100			
						組立高さH	上，下面加工仕上げ		±3			
							コンクリート構造用	H≦300mm	±3			
								H＞300mm	(H／200＋3) 小数点以下切り捨て			
						普通寸法	鋳放し長さ寸法 ※1）、※2）		JIS B 0403 CT14			
							鋳放し肉厚寸法 ※1）		JIS B 0403 CT15			
							削り加工寸法		JIS B 0405 粗級			
							ガス切断寸法		JIS B 0417 B級			
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	12 工場製作工 共通	1	2	鋳造費（大型ゴム支承工）	幅w長さL直径D	w，L，D≦500		0～＋5	製品全数を測定。 平面度：１個のゴム支承の厚さ（ｔ）の最大相対誤差		3-4-12-1
							500＜w，L，D≦1500mm		0～＋1%			
							1500＜w，L，D		0～＋15			
						厚さt	t≦20mm		±0.5			
							20＜t≦160		±2.5%			
							160＜t		±4			
						平面度			1			

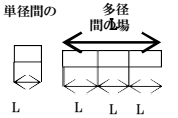
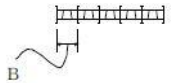
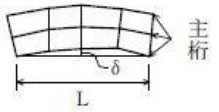
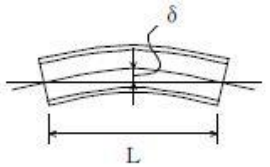
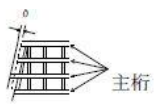
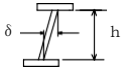
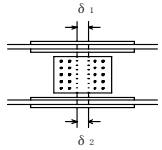
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	12 工場製作工 共通	1	3	仮設材製作工	部材	部材長ℓ（m）	±3… ℓ≦10 ±4… ℓ＞10	図面の寸法表示箇所で測定。		3-4-12-1
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	12 工場製作工 共通	1	4	刃口金物製作工	刃口高さh（m）		±2… h≦0.5 ±3… 0.5＜h≦1.0 ±4… 1.0＜h≦2.0	図面の寸法表示箇所で測定。		3-4-12-1
						外周長L（m）		±(10+L／10)			

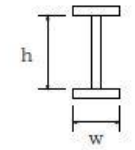
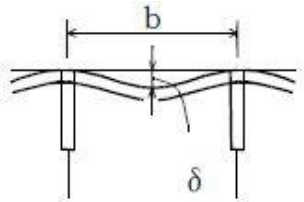
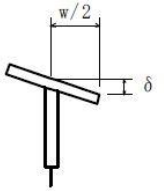
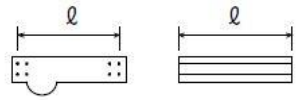
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準		測定箇所	摘要
									鋼桁等	トラス・アーチ等		
3 森林森林土木工事共通編	4 一般施工	12 工場製作工 共通	3	1	桁製作工 （仮組立による検査を実施する場合） （シミュレーション仮組立検査を行う場合）	部材精度	ﾌﾗﾝｼﾞ幅w（m） 腹板高h（m） 腹板間隔b′（m）	±2…… w≦0.5 ±3…… 0.5＜w≦1.0 ±4…… 1.0＜w≦2.0 ±(3＋w／2)…… 2.0＜w	主桁・主構 各支点及び各支間中央付近を測定。床組など 構造別に、５部材につき１個抜き取った部材の中央付近を測定。 なお、JISマーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行するJISに基づく試験成績表に替えることができる。			3-4-12-3
							板の平面度δ（mm） 鋼桁及びトラス等の部材の腹板	h／250	主桁 各支点及び各支間中央付近を測定。 h：腹板高（mm） b：腹板又はリブの間隔（mm） w：フランジ幅（mm）			3-4-12-3
							箱桁及びトラス等のフランジ鋼床版のデッキプレート	b／150				3-4-12-3
							フランジの直角度δ（mm）	w／200				
							部材長ℓ（m） 鋼桁	±3… ℓ≦10 ±4… ℓ＞10	原則として仮組立をしない状態の部材について、主要部材全数を測定。			3-4-12-3
							トラス、アーチなど	±2… ℓ≦10 ±3… ℓ＞10				
							圧縮材の曲がりδ（mm）	ℓ／1000	—	主要部材全数を測定。 ℓ：部材長（mm）		3-4-12-3
						※規格値のwに代入する数値はm単位の数値である。 ただし、「板の平面度δ，フランジの直角度δ，圧縮材の曲りδ」の規格値のh，b，wに代入する数値はmm単位の数値とする。						

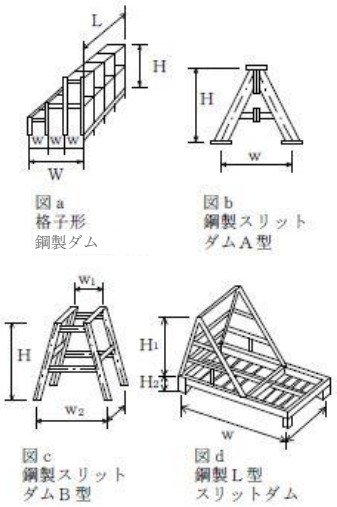
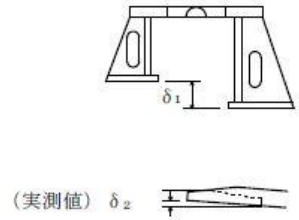
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準		測定箇所	摘要
									鋼桁等	トラス・アーチ等		
3 森林森林土木工事共通編	4 一般施工	12 工場製作工 共通	3	1	桁製作工 （仮組立による検査を実施する場合） （シミュレーション仮組立検査を行う場合）	仮組立精度	全長 L（m） 支間長 Ln（m）	±(10+L／10) ±(10+Ln／10)	各桁毎に全数測定。			3-4-12-3
							主桁、主構の中心間距離 B（m）	±4…… B≦2 ±(3+B／2) ……B＞2	各支点及び各支間中央付近を測定。			3-4-12-3
							主構の組立高さ h（m）	±5…… h≦5 ±(2.5+h／2) …… h＞5	—	両端部及び中心部を測定。		3-4-12-3
							主桁、主構の通り δ（mm）	5+L／5…… L≦100 25…… L＞100	最も外側の主桁又は主構について支点及び支間中央の１点を測定。 L：測線上（m）			3-4-12-3
							主桁、主構のそり δ（mm）	−5～+5…… L≦20 −5～+10…… 20＜L≦40 −5～+15…… 40＜L≦80 −5～+25…… 80＜L≦200	各主桁について10～12 m 間隔 を測定。 L：主桁の支間長（m）	各主構の各格点を測定。 L：主構の支間長（m）		3-4-12-3
							主桁、主構の橋端における出入差 δ（mm）	設計値±10	どちらか一方の主桁（主構）端を測定。			3-4-12-3
							主桁、主構の鉛直度 δ（mm）	3+h／1000	各主桁の両端部を測定 。 h：主桁の高さ（mm）	支点及び支間中央付近を測定。h：主構の高さ（mm）		3-4-12-3
							現場継手部のすき間 δ1，δ2（mm）	設計値±5	主桁、主構の全継手数の1／2を測定。 δ1、δ2のうち大きいもの 設計値が5mm以下の場合は、マイナス側については設計値以上とする。			3-4-12-3
						※規格値のL，B，h に代入する数値はm単位の数値である。 ただし、「主桁、主構の鉛直度δ」の規格値のhに代入する数値はmm単位の数値とする。						

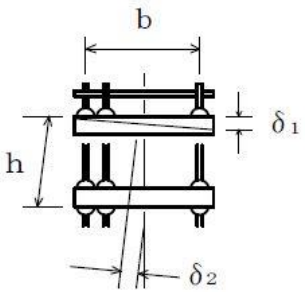
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	12 工場製作工 共通	3	2	桁製作工 （仮組立検査を実施しない場合）	部材精度	フランジ幅 w（m） 腹板高 h（m）	±2…… w≦0.5 ±3…… 5＜w≦1.0 ±4…… 1.0＜w≦2.0 ±(3＋w／2)…… 2.0＜w	主桁、主構 各支点及び各支間中央付近を測定。 床組など 構造別に、５部材につき１個抜き取った部材の中央付近を測定。	 I 型鋼桁	3-4-12-3
							板の平面度δ（mm） 鋼桁等の部材の腹板	h／250	主桁 各支点及び各支間中央付近を測定。 h：腹板高（mm） b：腹板又はリブの間隔（mm） w：フランジ幅（mm）		
							板の平面度δ（mm） 箱桁等のフランジ鋼床版のデッキプレート	b／150			
							フランジの直角度 δ（mm）	w／200			
							部材長ℓ（m） 鋼桁	±3…ℓ≦10 ±4…ℓ＞10	主要部材全数を測定。		
						※規格値のwに代入する数値はm単位の数値である。 ただし、「板の平面度δ，フランジの直角度δ」の規格値のh，b，wに代入する数値はmm単位の数値とする。					

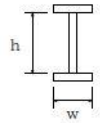
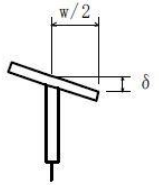
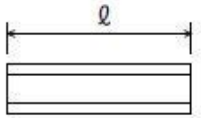
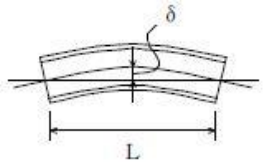
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	12 工場製作工 共通	3	3	桁製作工（鋼製ダム製作工（仮組立時））	部材の水平度		10	全数を測定。	 図a 格子形 鋼製ダム 図b 鋼製スリットダムA型 図c 鋼製スリットダムB型 図d 鋼製L型スリットダム	3-4-12-3
						堤長 L		±30			
						堤長 ℓ		±10			
						堤幅 W		±30			
						堤幅 w		±10			
						高さ H		±10			
						ベースプレートの高さ		±10			
						本体の傾き		±H／500			
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	12 工場製作工 共通	4		検査路製作工	部材	部材長ℓ（m）	±3…ℓ≦10 ±4…ℓ＞10	図面の寸法表示箇所で測定。		3-4-12-4
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	12 工場製作工 共通	5		鋼製伸縮継手製作工	部材	部材長w（m）	0～＋30	製品全数を測定。		3-4-12-5
						仮組立時	組合せる伸縮装置との高さの差 δ1（mm）	設計値 ±4	両端及び中央部付近を測定。		
							フィンガーの食い違い δ2（mm）	±2			

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	12 工場製作工 共通	6		落橋防止装置製作工	部材	部材長ℓ（m）	±3…ℓ≦10 ±4…ℓ＞10	図面の寸法表示箇所で測定。		3-4-12-6
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	12 工場製作工 共通	7		橋梁用防護柵製作工	部材	部材長ℓ（m）	±3…ℓ≦10 ±4…ℓ＞10	図面の寸法表示箇所で測定。		3-4-12-7
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	12 工場製作工 共通	8		アンカーフレーム製作工	仮組立時	上面水平度 δ1（mm）	b／500	軸心上全数測定。		3-4-12-8
							鉛直度 δ2（mm）	h／500			
							高さ h（mm）	±5			

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	12 工場製作工 共通	9		プレビーム用桁製作工	部材	フランジ幅 w（m） 腹板高 h（m）	±2…… w≦0.5 ±3…… 0.5＜w≦1.0 ±4…… 1.0＜w≦2.0 ±(3＋w／2)… 2.0＜w	各支点及び各支間中央付近を測定。	 I型鋼桁	3-4-12-9
						部材	フランジの直角度 δ（mm）	w／200	各支点及び各支間中央付近を測定。		3-4-12-9
						部材	部材長ℓ（m）	±3…ℓ≦10 ±4…ℓ＞10	原則として仮組立をしない部材について主要部材全数で測定。		3-4-12-9
						仮組立時	主桁のそり δ	−5～＋5 …L≦20 −5～＋10 …20＜L≦40	各主桁について10～12m間隔を測定。		3-4-12-9

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	12 工場製作工 共通	10		鋼製排水管製作工	部材 部材長 ℓ（m）	±3…ℓ≦10 ±4…ℓ＞10	図面の寸法表示箇所で測定。		3-4-12-10
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	12 工場製作工 共通	11		工場塗装工	塗膜厚	ａ．ロット塗膜厚の平均値は、目標塗膜厚合計値の90%以上。 ｂ．測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70 % 以上。 ｃ．測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20 %以下。 ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。	外面塗装では、無機ジンクリッチペイントの塗付後と上塗り終了時に測定し、内面塗装では内面塗装終了時に測定。 1ロットの大きさは、500㎡とする。 1ロット当たり測定数は25点とし、各点の測定は5回行い、その平均値をその点の測定値とする。ただし、1ロットの面積が200㎡に満たない場合は10㎡ ごとに1点とする。		3-4-12-11

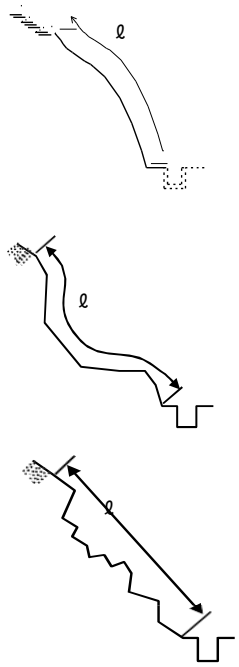
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	13 橋梁架設工			架設工（鋼橋） （クレーン架設） （ケーブルクレーン架設） （ケーブルエレクション架設） （架設桁架設） （送出し架設） （トラベラークレーン架設）	全長 L （m） 支間長 L_n（m）	±(20＋L／5) ±(20＋L_n／5)	各桁毎に全数測定。	単径間の場合 L 多径間の場合 L1 L2 L3	3-4-13
						通り δ（mm）	±(10＋2L／5)	L：主桁・主構の支間長(m)	主桁 δ L	
						そり δ（mm）	±(25＋L／2)	主桁、主構を全数測定。 L：主桁・主構の支間長(m)	δ L	
						※主桁、主構の中心間距離B(m)	±4…… B≦2 ±(3＋B／2)… B＞2	各支点及び各支間中央付近を測定。	B	
						※主桁の橋端における出入差δ（mm）	設計値 ±10	どちらか一方の主桁（ 主構）端を測定。	δ 主桁	
						※主桁、主構の鉛直度δ（mm）	3＋h／1000	各主桁の両端部を測定。h：主桁・主構の高さ(mm)	δ h	
						※現場継手部のすき間 δ_1，δ_2（mm）	設計値 ±5	主桁、主構の全継手数の1／2を測定。 δ1，δ2のうち大きいもの 設計値が5mm以下の場合は、マイナス側については設計値以上とする。	δ_1 δ_2	
								※は仮組立検査を実施しない工事に適用。		
					※規格値のL，Bに代入する数値はm単位の数値である。 ただし、「主げた、主構の鉛直度δ」の規格値のhに代入する数値はmm単位の数値とする。					

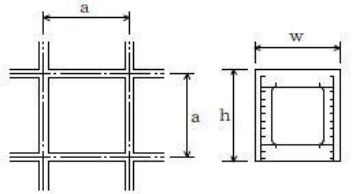
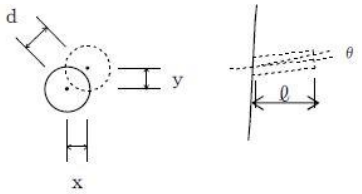
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	13 橋梁架設工			架設工 （コンクリート橋） （クレーン架設） （架設桁架設） 架設工支保工 （固定） （移動） 架設桁架設 （片持架設） （押出し架設）	全長・支間		―	各桁毎に全数測定。		3-4-13
						桁の中心間距離		―	一連毎の両端及び支間中央について各上下間を測定。		
						そり		―	主桁を全数測定。		
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	14 法面工 共通	2	1	植生工 （種子散布工） （張芝工） （筋芝工） （植生シート工） （植生マット工） （植生筋工）	切土法長ℓ	ℓ＜5m	－200	施工延長40mにつき１ヶ所、延長40m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所。		3-4-14-2
							ℓ≧5m	法長の－4%			
						盛土法長ℓ	ℓ＜5m	－100			
							ℓ≧5m	法長の－2%			
						延長 L		－200	１施工箇所毎		
						被覆率		70%以上	1,000㎡に1箇所		
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	14 法面工 共通	2	2	植生工 （植生基材吹付工） （客土吹付工）	法長ℓ	ℓ＜5m	－200	施工延長40mにつき１ヶ所、40m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所。		3-4-14-2
							ℓ≧5m	法長の－4%			
						厚さt	t ＜5cm	－10	施工面積200㎡につき１ヶ所、面積200㎡以下のものは、１施工箇所につき２ヶ所。 検査孔により測定。		
							t ≧5cm	－20			
							ただし、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は、設計厚の50%以上とし、平均厚は設計厚以上。				
						延長 L		－200	１施工箇所毎		
						被覆率		70%以上	1,000㎡に1箇所		

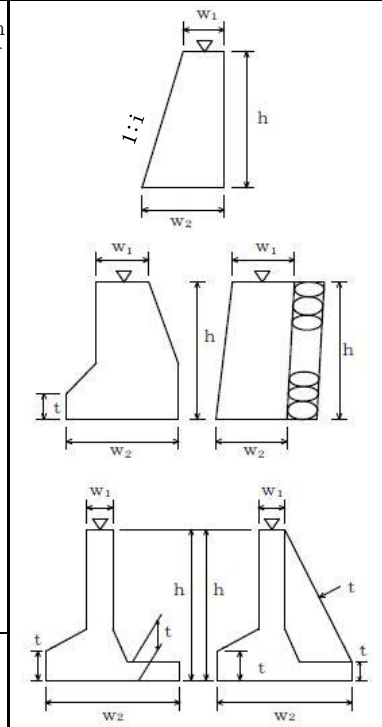
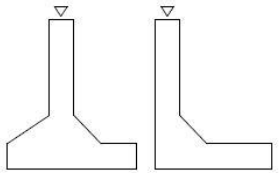
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	14 法面工 共通	3		吹付工 (コンクリート) (モルタル)	法長 ℓ	ℓ＜3m	－50	施工延長40mにつき１ヶ所、40m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所。 測定断面に凹凸があり、曲線法長の測定が困難な場合は直線法長とする。		3-4-14-3
							ℓ≧3m	－100			
						厚さ t	t ＜5cm	－10	200㎡につき１ヶ所以上、200㎡以下は２ヶ所をせん孔により測定。		
							t ≧5cm	－20			
							ただし、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は、設計厚の50%以上とし、平均厚は設計厚以上				
						延長 L		－200	１施工箇所毎		

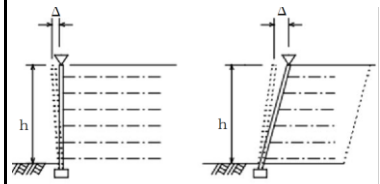
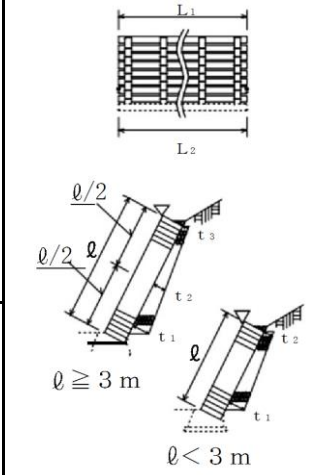
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	14 法面工 共通	4	1	法枠工 （現場打法枠工） （現場吹付法枠工）	法長 ℓ	ℓ＜10m	－100	施工延長40mにつき１ヶ所、延長40m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所。		3-4-14-4 曲線部は設計図書による
							ℓ≧10m	－200			
						幅 w		－30	枠延延長100mにつき１ヶ所、枠延延長100m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所。		
						高 さ h		－30			
						枠中心間隔 a		±100			
						延 長 L		－200	１施工箇所毎		
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	14 法面工 共通	4	2	法枠工 （プレキャスト法枠工）	法長 ℓ	ℓ＜10m	－100	施工延長40mにつき１ヶ所、延長40m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所。		3-4-14-4
							ℓ≧10m	－200			
						延 長 L		－200	１施工箇所毎		
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	14 法面工 共通	5		アンカー工	削孔深さ ℓ		設計値以上	全数	 $d = \sqrt{x^2 + y^2}$	3-4-14-5
						配置誤差 d		100			
						せん孔方向 θ		±2.5度			

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	15 擁壁工共通	1		（一般事項） 場所打擁壁工	基準高 ▽		±50	施工延長20mにつき１ヶ所、延長20m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所。		3-4-15-1
						厚さ t		−20			
						裏込厚さ		−50			
						幅	w_1, w_2	−30			
						高さ h	h＜3m	−50			
							h≧3m	−100			
						のり勾配 i		±0.2分			
						延長 L		−200	１施工箇所毎		
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	15 擁壁工共通	2		プレキャスト擁壁工	基準高 ▽		±50	施工延長20mにつき１ヶ所、延長20m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所。		3-4-15-2
						延長 L		−200	１施工箇所毎		

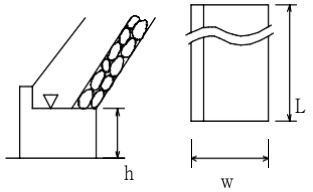
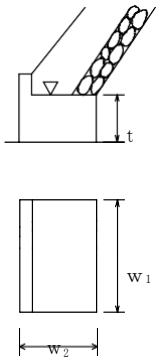
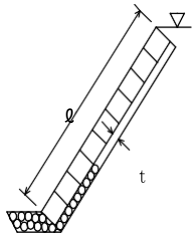
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	15 擁壁工 共通	3		補強土壁工 （補強土（テールアルメ）壁工法） （多数アンカー式補強土工法） （ジオテキスタイルを用いた補強土工法）	基準高 ▽		±50	施工延長20mにつき１ヶ所、延長20m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所。		3-4-15-3
						高さ h	h＜3m	－50			
							h≧3m	－100			
						鉛直度 △		±0.03hかつ ±300以内			
						控え長さ		設計値以上			
						延長 L		－200	1施工箇所毎		
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	15 擁壁工 共通	4		井桁ブロック工	基準高 ▽		±50	施工延長20mにつき１ヶ所、延長20m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所。		3-4-15-4
						のり長 ℓ	ℓ＜3m	－50			
							ℓ≧3m	－100			
						厚さ t_1 t_2 t_3		－50			
						延長 L_1 L_2		－200	1施工箇所毎		

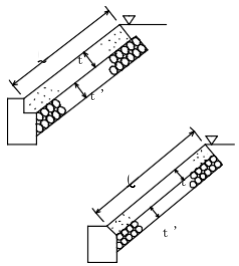
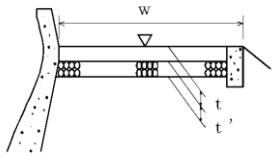
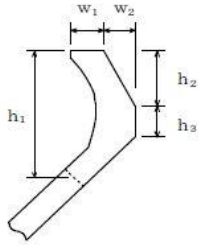
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
3 森林土木工事共通編	4 一般施工	16 床版工	2		床版工	基準高 ▽	±20	基準高は、1径間当たり2ヶ所（支点付近）で、1箇所当たり両端と中央部の3点、幅は1径間当たり3ヶ所、厚さは型枠設置時におおむね10㎡に1ヶ所測定。 （床版の厚さは、型枠検査をもって代える。）		3-4-16-2
						幅 w	0～＋30			
						厚さ t	－10～＋20			
						鉄筋のかぶり	設計値以上	1径間当たり3断面（両端及び中央）測定。1断面の測定箇所は断面変化毎1ヶ所とする。		
						鉄筋の有効高さ	±10			
						鉄筋間隔	±20	1径間当たり3ヶ所（両端及び中央）測定。 1ヶ所の測定は、橋軸方向の鉄筋は全数、橋軸直角方向の鉄筋は加工形状毎に2mの範囲を測定。		
						上記、鉄筋の有効高さがマイナスの場合	±10			

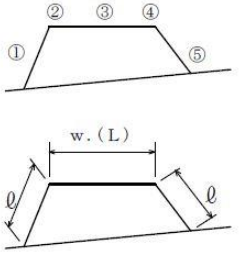
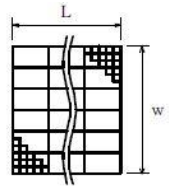
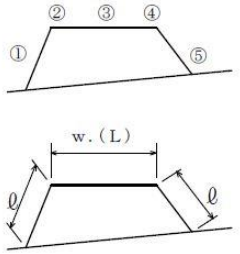
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
4 治山防潮工等	2 堤防・護岸	4 護岸基礎工	5		場所打コンクリート工	基準高 ▽	±30	施工延長40mにつき１ヶ所、延長40m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所。		4-2-4-5
						幅 w	−30			
						高さ h	−30			
						延長 L	−200			
4 治山防潮工等	2 堤防・護岸	4 護岸基礎工	6		海岸コンクリートブロック工	基準高 ▽	±50	ブロック個数40個につき１ヶ所の割で測定。 基準高、延長は施工延長40mにつき１ヶ所、延長40m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所。		4-2-4-6
						ブロック厚 t	−20			
						ブロック縦幅 w_1	−20			
						ブロック横幅 w_2	−20			
						延長 L	−200			
4 治山防潮工等	2 堤防・護岸	5 護岸工	4		海岸コンクリートブロック工	基準高 ▽	±50	施工延長40mにつき１ヶ所、延長40m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所。		4-2-5-4
						法長ℓ ℓ＜5m	−100			
						法長ℓ ℓ≧5m	ℓ×（−2%）			
						厚さ t	−50			
						延長 L	−200			

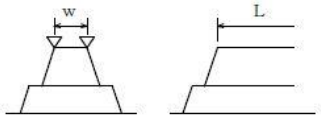
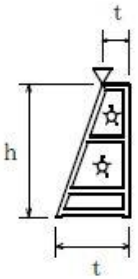
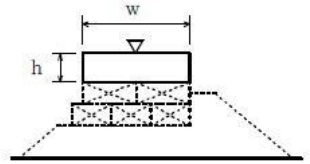
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
4 治山防潮工等	2 堤防・護岸	5 護岸工	5		コンクリート被覆工	基準高 ▽		±50	施工延長40mにつき１ヶ所、延長40m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所。		4-2-5-5
						法長ℓ	ℓ＜3m	－50			
							ℓ≧3m	－100			
						厚さｔ	ｔ＜100	－20			
							ｔ≧100	－30			
						裏込材厚 t’		－50			
						延長 L		－200			
4 治山防潮工等	2 堤防・護岸	7 天端被覆工	2		コンクリート被覆工	基準高 ▽		±50	施工延長40mにつき１ヶ所、延長40m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所。		4-2-7-2
						幅 w		－50			
						厚さ t		－10			
						基礎厚 t’		－45			
						延長 L		－200			
4 治山防潮工等	2 堤防・護岸	8 波返工	2		波返工	基準高 ▽		±50	施工延長40mにつき１ヶ所、延長40m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所。		4-2-8-2
						幅 w_1, w_2		－30			
						高さ h＜3m h_1, h_2, h_3		－50			
						高さ h≧3m h_1, h_2, h_3		－100			
						延長 L		－200			

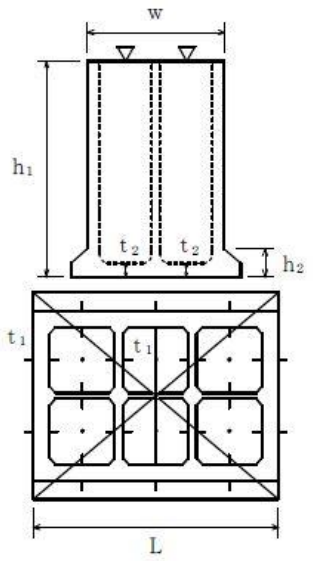
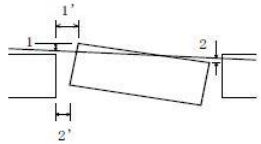
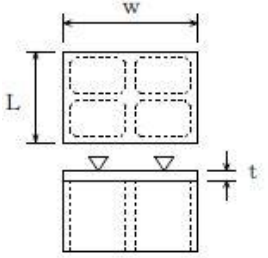
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目			規格値	測定基準	測定箇所	摘要
4 治山防潮工等	3 突堤	3 突堤基礎工	4		捨石工	基準高▽	本均し		±50	施工延長10mにつき、１測点当たり５点以上測定。		4-3-3-4
							表面均し		±100			
							荒均し	異形ブロック据付面（乱積）の高さ	±500			
								異形ブロック据付面（乱積）以外の高さ	±300			
							被覆均し	異形ブロック据付面（乱積）の高さ	±500			
								異形ブロック据付面（乱積）以外の高さ	±300			
						法長 ℓ			－100	幅は施工延長40mにつき１ヶ所、延長40m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所、延長はセンターライン及び表裏法肩。		
						天端幅 w_1			－100			
						天端延長 L_1			－200			
4 治山防潮工等	3 突堤	3 突堤基礎工	5		吸出し防止工	幅 w			－300	施工延長40mにつき１ヶ所、延長40m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所。		4-3-3-5
						延長 L			－500			
4 治山防潮工等	3 突堤	4 突堤本体工	2		捨石工	基準高▽	異形ブロック据付面（乱積）の高さ		±500	施工延長10mにつき、１測点当たり５点以上測定。		4-3-4-2
							異形ブロック据付面（乱積）以外の高さ		±300			
						法長 ℓ			－100	幅は施工延長40mにつき１ヶ所、延長40m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所、延長はセンターライン及び表裏法肩。		
						天端幅 w_1			－100			
						天端延長 L_1			－200			

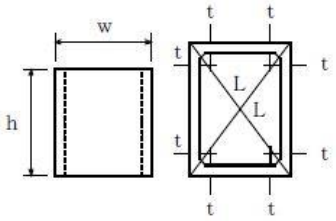
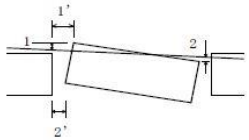
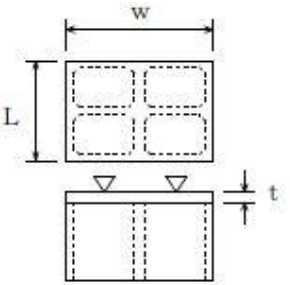
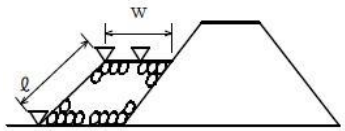
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
4 治山防潮工等	3 突堤	4 突堤本体工	5		海岸コンクリートブロック工	基準高 ▽	（層積）ブロック 規格26ｔ未満	±300	施工延長40mにつき１ヶ所、延長40m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所。 延長は、センターラインで行う。		4-3-4-5
							（層積）ブロック 規格26ｔ以上	±500			
							（乱　積）	±ブロックの高さの1／2			
						天端幅 w		－ブロックの高さの1／2			
						天端延長 L		－ブロックの高さの1／2			
4 治山防潮工等	3 突堤	4 突堤本体工	9		石砕工	基準高 ▽		±50	施工延長40mにつき１ヶ所、延長40m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所。		4-3-4-9
						厚さ t		－50			
						高さ h	h＜3m	－50			
							h≧3m	－100			
						延長 L		－200	1施工箇所毎		
4 治山防潮工等	3 突堤	4 突堤本体工	10		場所打コンクリート工	基準高 ▽		±30	施工延長40mにつき１ヶ所、延長40m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所。		4-3-4-10
						幅 w		－30			
						高さ h		－30			
						延長 L		－200			

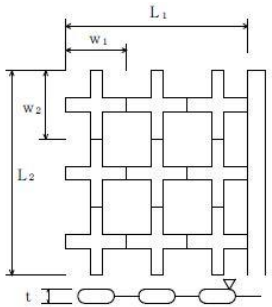
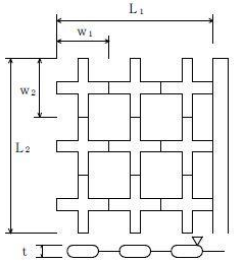
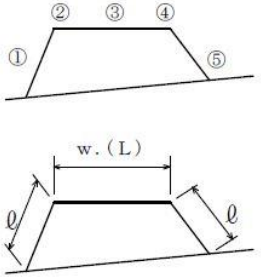
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
4 治山防潮工等	3 突堤	4 突堤本体工	11	1	ケーソン工 （ケーソン工製作）	バラストの基準高▽	砕石、砂	±100	各室中央部１ヶ所		4-3-4-11
							コンクリート	±50			
						壁厚 t1		±10	底版完成時、各壁１ヶ所		
						幅 w		＋30，－10	各層完成時に中央部及び底版と天端は両端		
						高さ h1		＋30，－10	完成時、四隅		
						長さ L		＋30，－10	各層完成時に中央部及び底版と天端は両端		
						底版厚さ t2		＋30，－10	底版完成時、各室中央部１ヶ所		
						フーチング高さ h2		＋30，－10	底版完成時、四隅		
4 治山防潮工等	3 突堤	4 突堤本体工	11	2	ケーソン工 （ケーソン工据付）	法線に対する出入 1、2		ケーソン重量2000ｔ未満 ±100	据付完了後、両端２ヶ所		4-3-4-11
								ケーソン重量2000ｔ以上 ±150			
						据付目地間隔 1’、2’		ケーソン重量2000ｔ未満 100以下	据付完了後、天端２ヶ所		
								ケーソン重量2000ｔ以上 200以下			
4 治山防潮工等	3 突堤	4 突堤本体工	11	3	ケーソン工 （突堤上部工） 場所打コンクリート 海岸コンクリートブロック	基準高▽	陸上	±30	１室につき１ヶ所（中心）		4-3-4-11
							水中	±50			
						厚さ t		±30			
						幅 w		±30			
						長さ L		±30			

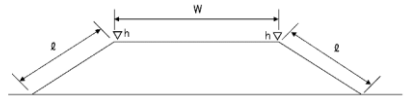
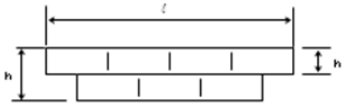
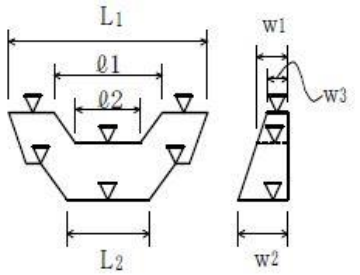
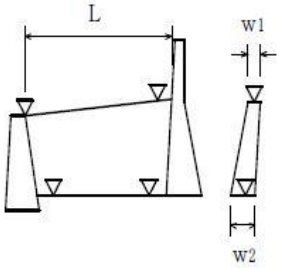
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
4 治山防潮工等	3 突堤	4 突堤本体工	12	1	セルラー工 （セルラー工製作）	壁厚 t	±10	型枠取外し後全数		4-3-4-12
						幅 w	＋20，－10			
						高さ h	＋20，－10			
						長さ L	＋20，－10			
4 治山防潮工等	3 突堤	4 突堤本体工	12	2	セルラー工 （セルラー工据付）	法線に対する出入 1、2	±50	据付後ブロック１ 個に２ヶ所（ 各段毎）		4-3-4-12
						隣接ブロックとの間隔1’、2’	50以下			
4 治山防潮工等	3 突堤	4 突堤本体工	12	3	セルラー工 （突堤上部工） 場所打コンクリート 海岸コンクリートブロック	基準高▽ 陸上	±30	１室につき１ヶ所（中心）		4-3-4-12
						基準高▽ 水中	±50			
						厚さ t	±30			
						幅 w	±30			
						長さ L	±30			
4 治山防潮工等	3 突堤	5 根固め工	2		捨石工	基準高▽ 異形ﾌﾞﾛｯｸ据付面（乱積）の高さ	±500	施工延長10mにつき、１測点当たり５点以上測定。		4-3-5-2
						基準高▽ 異形ﾌﾞﾛｯｸ据付面（乱積）以外の高さ	±300			
						法長 ℓ	－100	幅は施工延長40mにつき１ヶ所、延長40m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所、延長はセンターライン及び表裏法肩。		
						天端幅 w	－100			
						天端延長 L	－200			

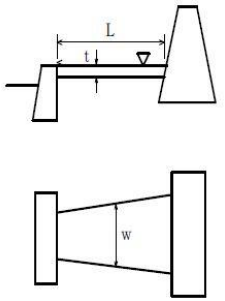
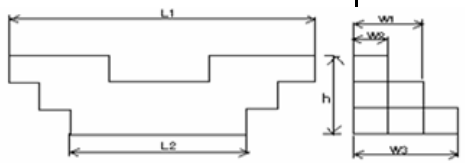
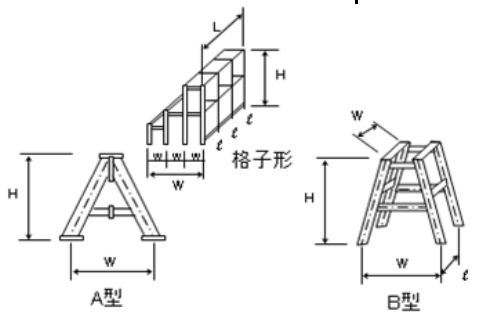
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
4 治山防潮工等	3 突堤	5 根固め工	3		根固めブロック工	基準高▽	層積	±100	施工延長40mにつき１ヶ所、延長40m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所。		4-3-5-3
							乱積	±ｔ／2			
						厚さ t		－20	幅、厚さは40個につき１ヶ所測定。		
						幅 w_1 w_2	層積	－20			
							乱積	－ｔ／2			
						延長 L_1 L_2	層積	－200	１施工箇所毎		
							乱積	－ｔ／2			
4 治山防潮工等	3 突堤	6 消波工	3		消波ブロック工	基準高▽	層積	±300	施工延長40mにつき１ヶ所、延長40m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所。		4-3-6-3
							乱積	±ｔ／2			
						厚さ t		－20	幅、厚さは40個につき１ヶ所測定。		
						幅 w_1, w_2		－20			
						延長 L_1, L_2		－200			
4 治山防潮工等	4 離岸堤 潜堤	3 海域堤基礎工	3		捨石工	基準高▽	本均し	±50	施工延長10mにつき、１測点当たり５点以上測定。		4-4-3-3
							荒均し 異形ブロック付面(乱積)の高さ	±500			
							荒均し 異形ブロック付面(乱積)以外の高さ	±300			
							被覆均し 異形ブロック付面(乱積)の高さ	±500			
							被覆均し 異形ブロック付面(乱積)以外の高さ	±300			
						法長 ℓ		－100	幅は施工延長40mにつき１ヶ所、延長40 m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所、延長はセンターライン及び表裏法肩。		
						天端幅 w_1		－100			
						天端延長 L_1		－200			

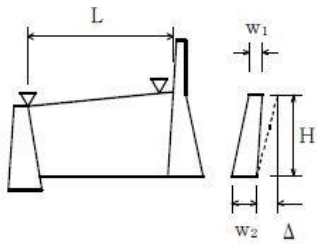
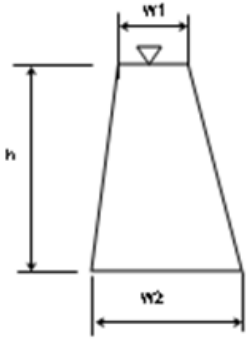
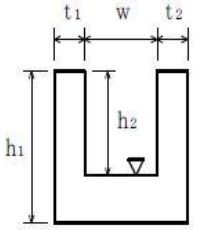
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
4 治山防潮工等	5 砂丘造成	4 森林造成	1		生育基盤盛土工	基準高 ▽h		-50	施工延長40mにつき1箇所。 延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。 基準高は、各法肩で測定。		4-5-4-1
						法長 ℓ	ℓ＜5m	-50			
							ℓ≧5m	-2%			
						幅 W		-100			
5 渓間・山腹工等	3 渓間工	3 法面工	6		かご工	幅（厚さ）		-50	延長は全箇所 高さ又は径については段数及び長さの異なる毎に測定する。 又、同一段数及び長さの延長が20mを超える場合は、20m毎に測定する。 なお、各個の寸法については、全個数の10%程度とする。		5-3-3-6
						高さ（法長）		L/50 -100～-200			
						長さ		L/50 -100～-300			
5 渓間・山腹工等	3 渓間工	5 コンクリート治山ダム工	4		コンクリート治山ダム本体工	基準高 ▽		±30	図の表示箇所で測定 1．設計図（構造図、標準図模式図等）に表示してある箇所を測定。 2．個々の測定値が基準を超えた場合でも機能、構造上支障がないと認められる場合には承認することが出来る。 3．この基準によりがたい場合、監督職員の指示による。		5-3-5-4
						高さ h		-30			
						幅（厚さ） W（t）		－30			
						堤長 L，ℓ		L/300 -50～-150			
						法勾配		±0.2分			
5 渓間・山腹工等	3 渓間工	5 コンクリート治山ダム工	6		コンクリート側壁工	基準高 ▽		±30	図の表示箇所で測定		5-3-5-6
						高さ h		-30			
						幅 w_1，w_2		－30			
						長さ L		L/300 -50～-150			
						法勾配		±0.2分			

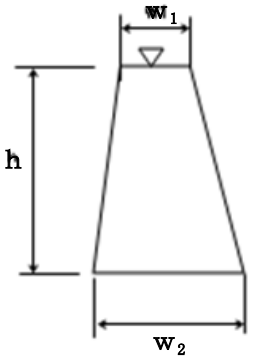
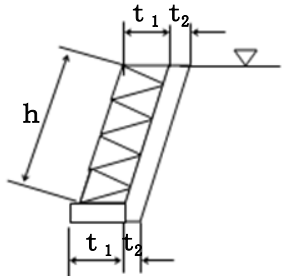
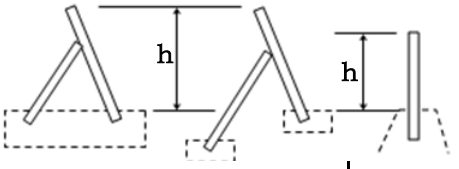
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
5 渓間・山腹工等	3 渓間工	5 コンクリート治山ダム工	8		水叩工	基準高 ▽	±30	図の表示箇所で測定		5-3-5-8
						高さ h	−30			
						幅 w	−30			
						厚さ t	−30			
						延長 L	L/300 -50～-150			
5 渓間・山腹工等	3 渓間工	6 鋼製治山ダム工	5	1	鋼製ダム本体工（不透過型）	高さ h ▽	-50	鋼製ダム（枠工タイプ）は図面の表示箇所で測定。		5-3-6-5
						長さ L_1, L_2	L/300 -50～-100			
						幅(厚さ) w_1, w_3	-50			
						法勾配	±0.2分			
5 渓間・山腹工等	3 渓間工	6 鋼製治山ダム工	5	2	鋼製ダム本体工（透過型）	堤長 L 格子形	±50	（備考） 格子形：格子型鋼製ダム A型：鋼製スリットダム A型 B型：鋼製スリットダム B型		5-3-6-5
						堤長 ℓ 格子形・B	±10			
						堤幅 W 格子形	±30			
						堤幅 w 格子形・A・B	±10			
						高さ H 格子形・A・B	±10			

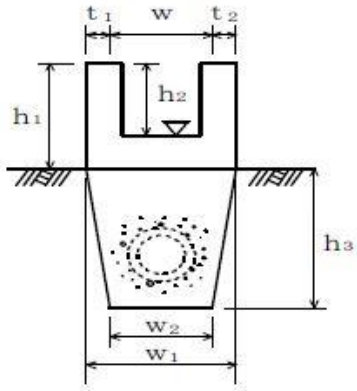
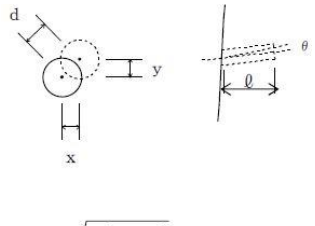
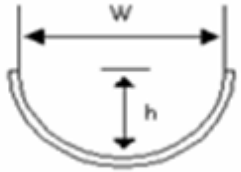
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
5 渓間・山腹工等	3 渓間工	6 鋼製治山ダム工	6		鋼製側壁工	堤高 ▽	±50	1．図面に表示してある箇所で測定。 2．ダブルウォール構造の場合は、堤高、幅、袖高は＋の規格値は適用しない。		5-3-6-6
						長さ L	±100			
						幅 w_1, w_2	±50			
						下流側倒れ ◿	±0.02H			
						高さ h：h＜3m	−50			
						高さ h：h≧3m	−100			
5 渓間・山腹工等	3 渓間工	7 木製治山ダム工	6		木製治山ダム本体工	長さ L	L/50 -100～-400	図面の表示箇所で測定。断面、形状等の変化点毎に測定する。		5-3-7-6
						幅(厚さ) w	-50			
						法勾配	±0.5分			
						高さ h	-100			
5 渓間・山腹工等	4 流路工	4 床固め工	8		魚道工	基準高 ▽	±30	施工延長40mにつき１ヶ所、 延長40m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所。		5-4-4-8
						幅 w	−30			
						高さ h_1, h_2	−30			
						厚さ t_1, t_2	−20			
						延長 L	−200			

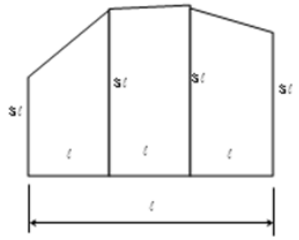
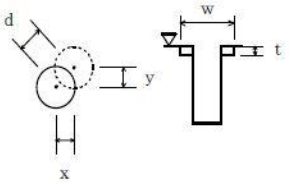
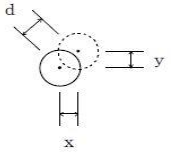
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値		測定基準	測定箇所	摘要
5 渓間・山腹工等	5 山腹工	6 土留工	3		コンクリート土留工	基準高 ▽		±50		図面の表示箇所で測定。断面、形状等の変化点毎に測定する。		5-5-6-3
						高さ h	h＜3m	−50				
							h≧3m	−100				
						幅(厚さ) w_1, w_2		−30				
						長さ L		L/300 -50～150				
						法勾配		±0.2分				
5 渓間・山腹工等	5 山腹工	6 土留工	5		石積及びコンクリートブロック積土留工	基準高 ▽		±50		図面の表示箇所で測定。断面、形状等の変化点毎に測定する。		5-5-6-5
						高さ h		-50				
						長さ L		L/100 -50～-200				
						法勾配		±0.3分				
						幅(厚さ) W、t	t1	-30				
							t2	-30				
5 渓間・山腹工等	5 山腹工	8 落石防護工	3		鋼製落石防止壁工	基準高 ▽		±50		図面の表示箇所で測定。		5-5-8-3
						長さ L		L/300 -50～-100		コンクリート基礎がある場合は、5-5-6-3 コンクリート土留工による。		
						高さ h		-30				

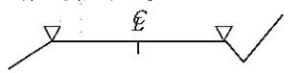
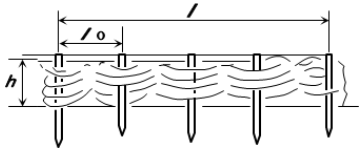
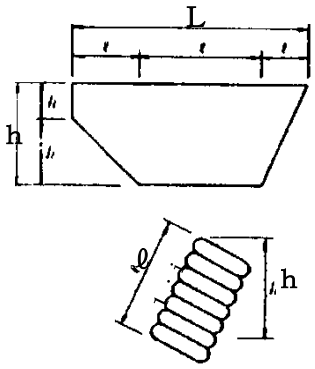
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
5 渓間・山腹工等	5 山腹工	9 暗渠工	2		礫暗渠工 （水路併用）	基準高 ▽	±30	施工延長40mにつき１ヶ所、延長40m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所。		5-5-9-2
						厚さ t_1, t_2	−20			
						幅 w	−30			
						幅 w_1, w_2	−50			
						高さ h_1, h_2	−30			
						深さ h_3	−30			
						延長 L	−200			
5 渓間・山腹工等	5 山腹工	9 暗渠工	5		ボーリング暗渠工	基準高	±100	全数		5-5-9-5
						長さ ℓ	設計値以上			
						傾斜角 θ	±1度			
						方向	±2.5度			
5 渓間・山腹工等	5 山腹工	10 山腹水路工	3		水路工	幅 w	-100			5-5-10-3
						深さ h	-50			
						延長 L	-200			
5 渓間・山腹工等	5 山腹工	12 筋工			筋工	長さ L	L/50 -100～-400	全箇所		5-5-12
						幅(厚さ)	-50	延長40m毎に1箇所の割合で測定する。40m以下の場合は2箇所とする。		

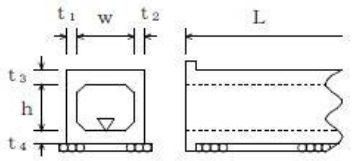
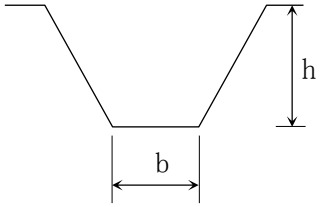
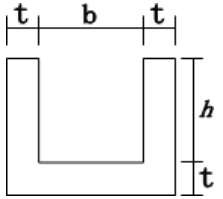
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
5 渓間・山腹工等	5 山腹工	13 伏工			伏工	法長	s ℓ< 5m	-200	法長の変化点毎に測定する。 面積で管理する場の規格値は、-2%とする。		5-5-13
							s ℓ≧ 5m	-4%			
						延長		-200			
5 渓間・山腹工等	6 地すべり防止工	4 集水井工	3		施工（集水井工）	基準高 ▽		±50	全数測定。 偏心量は、杭頭と底面の差を測定。	 $d=\sqrt{x^2+y^2}$	5-6-4-3
						偏心量 d		150			
						長さ L		－100			
						巻立て幅 w		－50			
						巻立て厚さ t		－30			
5 渓間・山腹工等	6 地すべり防止工	7 杭工			杭工	基準高 ▽		±50		 $d=\sqrt{x^2+y^2}$	5-6-7-2 5-6-7-3
						根入長		設計値以上			
						偏心量 d		D／4以内かつ 100以内			
5 渓間・山腹工等	8 森林整備	4 歩道整備	1		歩道作設	延長		設計値以上			5-8-4-1
						幅員		設計値以上			

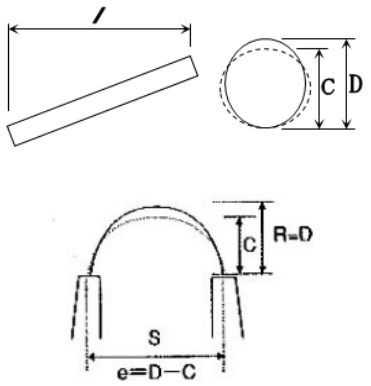
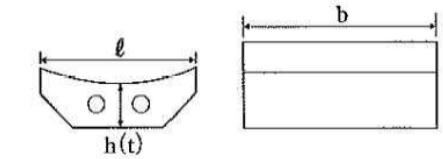
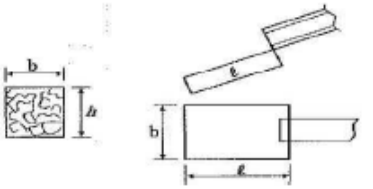
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
6 林道	1 林道	1 適用			路線・縦断	中心線	ＩＰの位置	交角±30′ コンパス等の場合±1°	全ＩＰ 平面図の曲線表等に記入する。		
							ＩＰの距離（Ｌ）	Ｌ≦40m ±200 Ｌ＞40m ±0.5%			
							測点間の距離	±100	全測点 横断面図等に記入する。		
							中心線の寄り	±100			
						施工基面等	水準基標	±100	全箇所	施工基面高は、特に指定しない限り中心線で測定する。 	
							施工基面高	±100	全測点 横断面図、縦断計算表、野帳等に記入する。		
6 林道	1 林道	5 法面工	8		柵工	延長	ℓ＜10m	-200	全箇所測定。 杭数の10%程度について測定する。 ただし、杭の仕様本数は全数について確認する。 野帳等に記入する		6-1-5-8
							ℓ≧10m	-2%			
						柵高　h		-30			
						杭の使用本数		ℓ/ℓ_0+1以上			
						杭間隔　ℓ_0		+200			
						杭の末口径 D		-10%			
6 林道	1 林道	7 擁壁工	12 13		木製土留・擁壁工 土のう積工	延長（Ｌ）		－100	断面，形状等の変化点ごとに測定する。 設計図、野帳に記入または出来形図等を作成する。ただし簡易なものは見取り図とすることができる。		6-1-7-12 6-1-7-13
						法勾配(i)		－0.5分			
						法長（ℓ）又は高さ（ｈ）		－100			

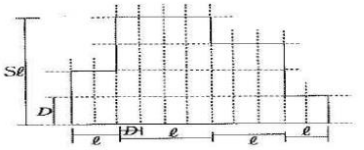
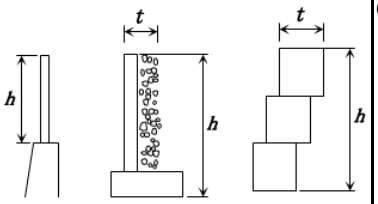
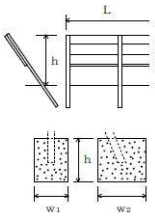
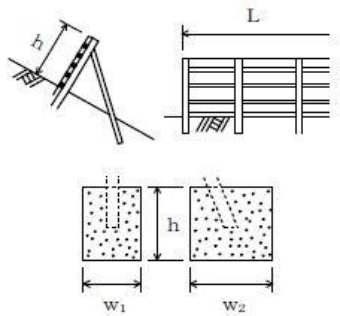
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
6 林道	1 林道	9 カルバート工	6		場所打函渠工	基準高 ▽		±30	寸法は、両端、継手箇所、および断面、形状等の変化点について測定する。 設計図に記入または出来形図等を策定する。		6-1-9-6
						厚さ t		−20			
						幅（内法） w		−30			
						高さ h		±30			
						延長 L	L＜20m	−50			
							L≧20m	−100			
6 林道	1 林道	10 排水施設工	3		側溝工（素掘り）	高さ h		-50	施工延長40mにつき１ケ所、延長40m以下のものは1施工箇所につき２箇所。 野帳に記入する。		6-1-10-3
						幅 b		-50			
						延長 L		-0.1% 最大-200			
6 林道	1 林道	10 排水施設工	4		横断工（開渠）	基準高		±50	1施工当たり2箇所程度測定する。 ただし、施工延長が20mを超える場合は、20m程度毎に測定する。 工場製品の寸法は、規格証明書等による。 設計図・野帳に記入または出来形図等を作成する。		6-1-10-4
						高さ h		-20			
						幅 b		-30			
						厚さ t		-10			
						延長 L		-0.1% 最大-200			

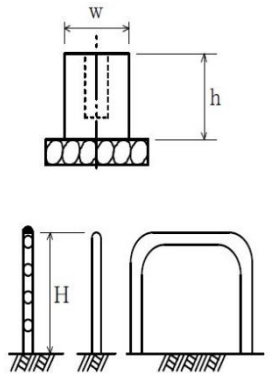
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工　種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
6 林道	1 林道	10 排水施設工	5 6		コルゲートパイプ工 コルゲートフリューム工	基準高	±50	1施工箇所当たり2箇所。ただし施工延長が20mを超える場合は、20m程度毎に測定する。 工場製品の場合の寸法は、規格証明書等による。 ただし、製造元の製品の仕様により許容値が定められている場合は、当該許容値を規格値に読み替えるものとし、製造元の証明書等を添付するものとする。		6-1-10-5 6-1-10-6
						変形量　n	e/D±5%			
						スパン　S	±2%			
						延長　ℓ	-0.1% 最大-200			
6 林道	1 林道	10 排水施設工	7		洗越工	長さ　ℓ	-200	全箇所 断面、形状等の変化点について測定する。 設計図、野帳に記入または出来高図等を作成する。		6-1-10-7
						幅　b	-30			
						高さ（厚さ）h、t	-50			
6 林道	1 林道	10 排水施設工	11		流末工	長さ　ℓ	-100	全箇所 設計図に記入また等に記入する。		6-1-10-11
						幅　b	-50			
						高さ（厚さ）h	-10			

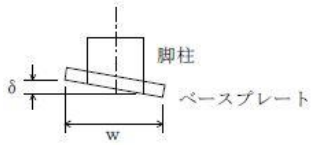
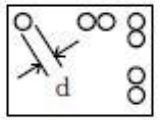
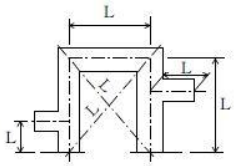
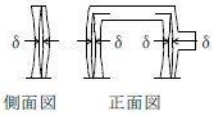
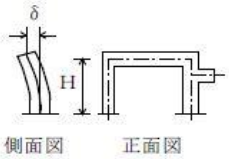
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
6 林道	1 林道	11 落石雪害防止工	4		落石防止網工	区間長 ℓ	ℓ＜10m	－100	全箇所 ただし、ロープ間隔は変化点毎の全間隔とする。 法長は、最上段と最下段のロープ間隔とする。 設計図に記入または出来形図等を作成する。		6-1-11-4
							ℓ≧10m	-1%最大-200			
						ロープ間隔 D		-100			
						法長 Sℓ		-2%			
6 林道	1 林道	11 落石雪害防止工	5		落石防護柵工	基準高		±50	全箇所 厚さは、1施工箇所当たり2箇所以上とする。 設計図に記入または出来形図等を作成する。		6-1-11-5
						延長	ℓ＜10m	－50			
							ℓ≧10m	-0.5%最大-100			
						高さ h		-50			
						厚さ t		－200			
6 林道	1 林道	11 落石雪害防止工	6		防雪柵工	高さ h		±30	施工延長40mにつき１ヶ所、施工延長40m以下のものは１施工箇所につき２箇所。		6-1-11-6
						延長 L		－200	１施工箇所毎		
						基礎	幅 w_1，w_2	－30	基礎１基毎		
							高さ h	－30			
6 林道	1 林道	11 落石雪害防止工	7		雪崩予防柵工	高さ h		±30	施工延長40mにつき1ヶ所、施工延長40m以下のものは１施工箇所につき２箇所。		6-1-11-7
						延長 L		－200	１施工箇所毎		
						基礎	幅 w_1，w_2	－30	基礎１基毎		
							高さ h	－30			
						アンカー長 ℓ	打込み ℓ	－10%	全数		
							埋込み ℓ	－5%			
							ずれ a	10			
							ねじれ b－c	5			
							倒れ d	h×0.5%			
						高さ h		＋30，－20			
						延長 L		－200	１施工箇所毎		

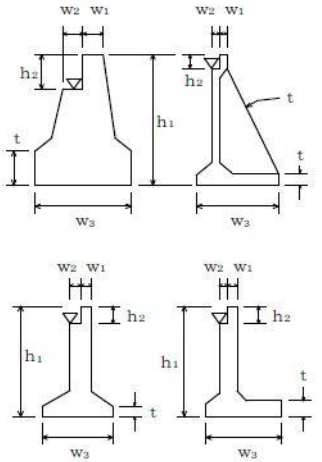
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
6 林道	2 舗装	6 踏掛版工	4		踏掛版工 (コンクリート工)	基準高	±20	1ヶ所／1踏掛版		10-2-6-4
						各部の厚さ	±20	1ヶ所／1踏掛版		
						各部の長さ	±30	1ヶ所／1踏掛版		
					(ラバーシュー)	各部の長さ	±20	全数		
						厚さ	—			
					(アンカーボルト)	中心のずれ	±20	全数		
						アンカー長	±20	全数		
6 林道	2 舗装	7 防護施設	5		車止めポスト工	基礎幅 w	−30	単独基礎10基につき1基、10基以下のものは2基測定。測定箇所は1基につき1ヶ所測定。		6-2-7-5

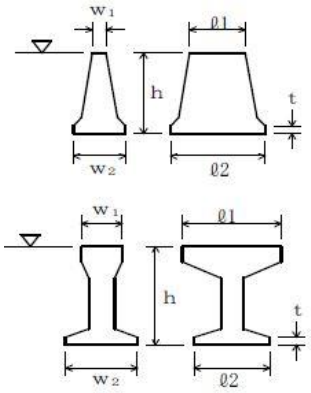
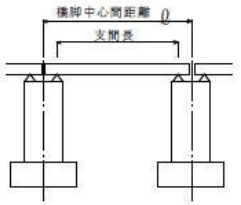
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目			規格値	測定基準	測定箇所	摘要
6 林道	3 橋梁下部	3 工場製作工	3		鋼製橋脚製作工	部材	脚柱とベースプレートの鉛直度 δ（mm）		w／500	各脚柱、ベースプレートを測定。		6-3-3-3
							ベースプレート	孔の位置	±2	全数を測定。		6-3-3-3
								孔の径 d	0～5	全数を測定。		
						仮組立時	柱の中心間隔、対角長L（m）		±5… L≦10m ±10… 10＜L≦20m ±(10＋(L－20)／10)… 20m＜L	両端部及び片持ばり部を測定。		6-3-3-3
							はりのキャンバー及び柱の曲がり δ（mm）		L／1000	各主構の各格点を測定。		6-3-3-3
							柱の鉛直度 δ（mm）		10… H≦10 H… H＞10	各柱及び片持ばり部を測定。 H：高さ（m）		6-3-3-3

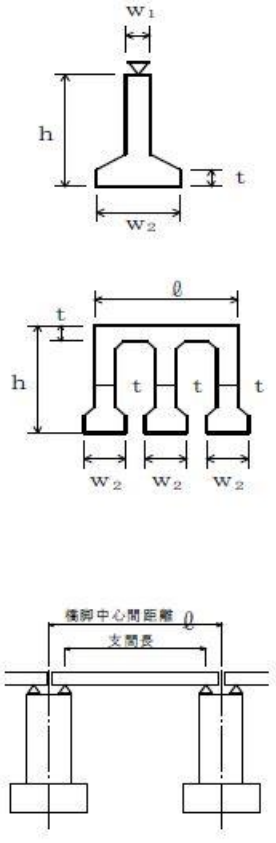
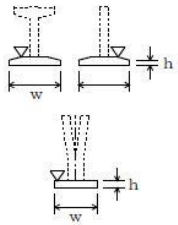
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
6 林道	3 橋梁下部	6 橋台工	8		橋台躯体工	基準高 ▽		±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。 箱抜き形状の詳細については「道路橋支承便覧」による。		6-3-6-8
						厚さ t		−20			
						天端幅 w_1（橋軸方向）		−10			
						天端幅 w_2（橋軸方向）		−10			
						敷幅 w_3（橋軸方向）		−50			
						高さ h_1		−50			
						胸壁の高さ h_2		−30			
						天端長 ℓ_1		−50			
						敷長 ℓ_2		−50			
						胸壁間距離 ℓ		±30			
						支間長及び中心線の変位		±50			
						支承部アンカーボルトの箱抜き規格値	計画高	＋10～－20			
							平面位置	±20			
							ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ孔の鉛直度	1／50以下			

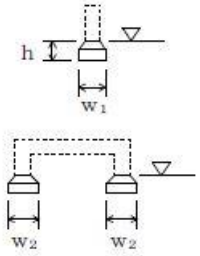
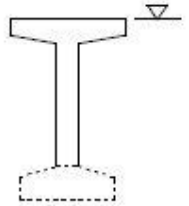
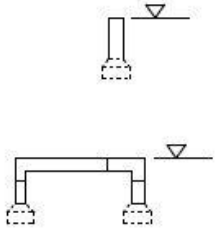
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
6 林道	3 橋梁下部	7 RC橋脚工	9	1	橋脚躯体工 （張出式） （重力式） （半重力式）	基準高 ▽		±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。 箱抜き形状の詳細については「道路橋支承便覧」による。	 	6-3-7-9
						厚さ t		−20			
						天端幅 w_1（橋軸方向）		−20			
						敷幅 w_2（橋軸方向）		−50			
						高さ h		−50			
						天端長 ℓ_1		−50			
						敷長 ℓ_2		−50			
						橋脚中心間距離 ℓ		±30			
						支間長及び中心線の変位		±50			
					支承部アンカーボルトの箱抜き規格値		計画高	＋10～－20			
							平面位置	±20			
							ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ孔の鉛直度	1／50以下			

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値	測定基準	測定箇所	摘要
6 林道	3 橋梁下部	7 RC橋脚工	9	2	橋脚躯体工（ラーメン式）	基準高 ▽		±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。 箱抜き形状の詳細については「道路橋支承便覧」による。		6-3-7-9
						厚さ t		−20			
						天端幅 w_1		−20			
						敷幅 w_2		−20			
						高さ h		−50			
						長さ ℓ		−20			
						橋脚中心間距離 ℓ		±30			
						支間長及び中心線の変位		±50			
						箱抜き規格値（支承部アンカーボルトの）	計画高	＋10～－20			
							平面位置	±20			
							ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ孔の鉛直度	1／50以下			
6 林道	3 橋梁下部	8 鋼製橋脚工	9	1	橋脚フーチング工（Ⅰ型・T型）	基準高 ▽		±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		6-3-8-9
						幅 w（橋軸方向）		−50			
						高さ h		−50			
						長さ ℓ		−50			

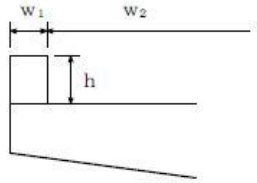
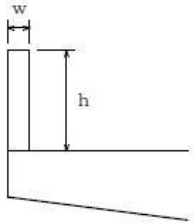
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
6 林道	3 橋梁下部	8 鋼製橋脚工	9	2	橋脚フーチング工（門型）	基準高 ▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		6-3-8-9
						幅 w_1, w_2	−50			
						高さ h	−50			
6 林道	3 橋梁下部	8 鋼製橋脚工	10	1	橋脚架設工（Ⅰ型・T型）	基準高 ▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		6-3-8-10
						橋脚中心間距離 ℓ	±30			
						支間長及び中心線の変位	±50			
6 林道	3 橋梁下部	8 鋼製橋脚工	10	2	橋脚架設工（門型）	基準高 ▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		6-3-8-10
						橋脚中心間距離 ℓ	±30			
						支間長及び中心線の変位	±50			
6 林道	3 橋梁下部	8 鋼製橋脚工	11		現場継手工	現場継手部のすき間 δ1, δ2（mm）	5 ※±5	主桁、主構の全継手数の1／2を測定。 ※は耐候性鋼材（裸使用）の場合		6-3-8-11

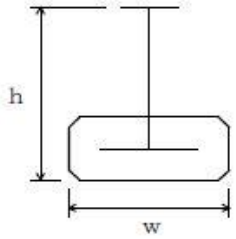
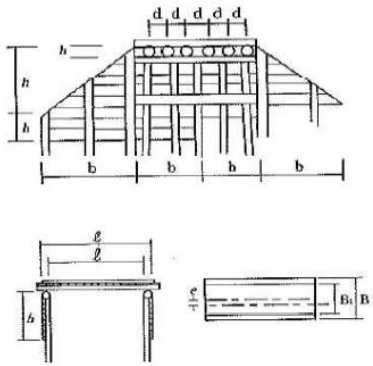
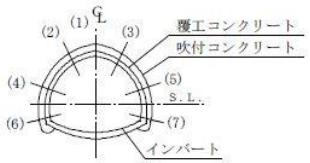
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規格値		測定基準	測定箇所	摘要
6 林道	4 鋼橋上部	3 工場製作工	9		橋梁用高欄製作工	部材	部材長ℓ（m）	±3…ℓ≦10 ±4…ℓ＞10		図面の寸法表示箇所で測定。		6-4-3-9
6 林道	4 鋼橋上部	5 鋼橋架設工	10	1	支承工 （鋼製支承）	据付け高さ 注1)		±5		支承全数を測定。 B：支承中心間隔（m） 支承の平面寸法が300㎜ 以下の場合は、水平面の高低差を1㎜ 以下とする。 なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1）先固定の場合は、支承上面で測定する。 注2）可動支承の遊間（La, Lb）を計測し、支承据付時のオフセット量δを考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注3）可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。		6-4-5-10
						可動支承の移動可能量　注2)		設計移動量 ＋10以上				
						支承中心間隔 （橋軸直角方向）		ｺﾝｸﾘｰﾄ橋	鋼橋			
								±5	4＋0.5×(B－2)			
						水平度の下沓	橋軸方向	1／100				
							橋軸直角方向					
						可動支承の橋軸方向のずれ同一支承線上の相対誤差		5				
						可動支承の移動量　注3)		温度変化に伴う移動量計算値の1／2以上				
6 林道	4 鋼橋上部	5 鋼橋架設工	10	2	支承工 （ゴム支承）	据付け高さ 注1)		±5		支承全数を測定。 B：支承中心間隔（m） 上部構造部材下面とゴム支承面との接触面及びゴム支承と台座モルタルとの接触面に肌すきが無いことを確認。 支承の平面寸法が300㎜ 以下の場合は、水平面の高低差を1㎜ 以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1）先固定の場合は、支承上面で測定する。 注2）可動支承の遊間（La, Lb）を計測し、支承据付時のオフセット量δを考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注3）可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。		6-4-5-10
						可動支承の移動可能量　注2)		設計移動量 ＋10以上				
						支承中心間隔 （橋軸直角方向）		ｺﾝｸﾘｰﾄ橋	鋼橋			
								±5	4＋0.5×(B－2)			
						水平度の支承	橋軸方向	1／300				
							橋軸直角方向					
						可動支承の橋軸方向のずれ同一支承線上の相対誤差		5				
						可動支承の移動量　注3)		温度変化に伴う移動量計算値の1／2以上				

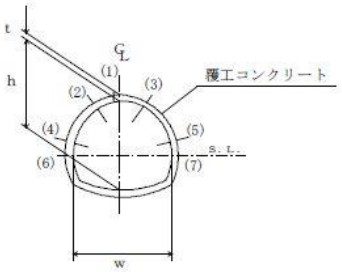
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
6 林道	4 鋼橋上部	8 橋梁付属物工	3		落橋防止装置工	アンカーボルト孔の削孔長	設計値以上	全数測定		6-4-8-3
						アンカーボルト定着長	－20以内 かつ －1D以内	全数測定 D：アンカーボルト径（mm）		
6 林道	4 鋼橋上部	8 橋梁付属物工	5		地覆工	地覆の幅 w_1	－10～＋20	1径間当たり両端と中央部の3ヶ所測定。		6-4-8-5
						地覆の高さ h	－10～＋20			
						有効幅員 w_2	0～＋30			
6 林道	4 鋼橋上部	8 橋梁付属物工	6 7		橋梁用防護柵工 橋梁用高欄工	幅 w	－5～＋10	1径間当たり両端と中央部の3ヶ所測定。		6-4-8-6 6-4-8-7
						高 さ	－20～＋30			
6 林道	4 鋼橋上部	8 橋梁付属物工	8		検査路工	幅高さ	±3	1ブロックを抽出して測定。		6-4-8-8
							±4			

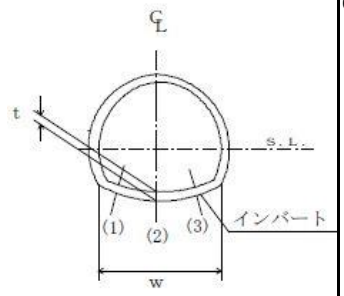
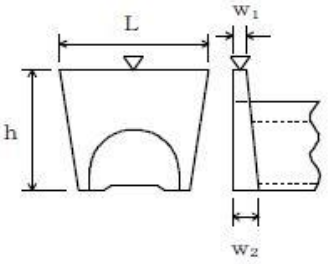
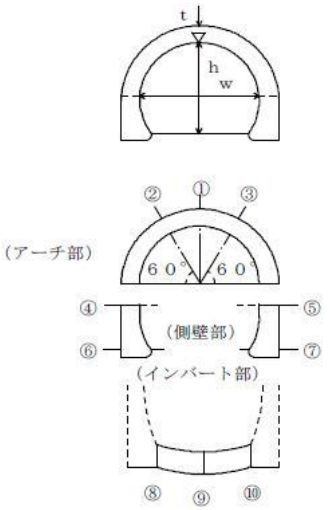
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工　種	測　定　項　目		規格値	測 定 基 準	測　定　箇　所	摘　要
6 林道	5 コンクリート橋上部	6 プレビーム桁橋工	2		プレビーム桁製作工（現場）	幅　w		±5	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の３ヶ所とする。 ℓ：スパン長		6-5-6-2
						高さ　h		10 -5			
						桁長　ℓ スパン長		ℓ＜15…±10 ℓ≧15… ±(ℓ－5)かつ －30㎜以内			
						横方向最大タワミ		0.8ℓ			
6 林道	6 木造橋上部	3 木造橋上部	3		木桁	基準高		±100	全箇所 橋軸方向の断面寸法は、中央及び両端部、その他は寸法表示箇所を測定する。 設計図に記入または出来形図等を作成する。		6-6-3-3
						橋長、支間長 ℓ		±50			
						全幅 B、全幅員 B_1		±50			
						けた中心距離　d		±30			
						橋台土留 （橋軸直角又は斜角方向）	幅　b	-50			
							高さh	-30			
						施工部材長さ		±50	けた、はり、ぬき、筋かい、高欄等ｎ各部材		
						橋軸の偏心量　e		±10			
6 林道	7 トンネル　ＮＡＴＭ	4 支保工	3		吹付工	吹付け厚さ		設計吹付け厚以上。ただし、良好な岩盤で施工端部、突出部等の特殊な箇所は設計吹付け厚の1/3以上を確保するものとする。	施工延長 40m毎に図に示す。 (1)～(7)及び断面変化点の検測孔を測定。 注）良好な岩盤とは、道路トンネル技術基準（構造編）にいう地盤等級Ａ又はＢに該当する地盤とする。		6-7-4-3
6 林道	7 トンネル　ＮＡＴＭ	4 支保工	4		ロックボルト工	位置間隔		－	施工延長40m毎に断面全本数検測		6-7-4-4
						角度		－			
						削孔深さ		－			
						孔径		－			
						突出量		プレート下面 から10cm以内			

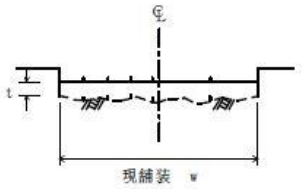
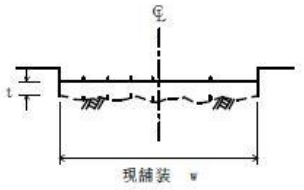
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
6 林道	7 トンネル NATM	5 覆工	3		覆工コンクリート工	基準高▽（拱頂）	±50	(1) 基準高、幅、高さは、施工40mにつき１ヶ所。 (2) 厚さ (ｲ) コンクリート打設前の巻立空間を１打設長の終点を図に示す各点で測定。中間部はコンクリート打設口で測定。 (ﾛ) コンクリート打設後、覆工コンクリートについて１打設長の端面（施工継手の位置）において、図に示す各点の巻厚測定を行う。 (ﾊ) 検測孔による巻厚の測定は図の(1)は40mに１ヶ所、(2)～(3)は100mに１ヶ所の割合で行う。 なお、トンネル延長が100m以下のものについては、１トンネル当たり２ヶ所以上の検測孔による測定を行う。 ただし、以下の場合には、左記の規格値は適用除外とする。 ・良好な地山における岩又は吹付コンクリートの部分的な突出で、設計覆工厚の３分の１以下のもの。 なお、変形が収束しているものに限る。 ・異常土圧による覆工厚不足で、型枠の据付け時には安定が確認されかつ別途構造的に覆工の安全が確認されている場合。 ・鋼アーチ支保工、ロックボルトの突出。		6-7-5-3
						幅　w（全幅）	−50			
						高さ h（内法）	−50			
						厚さ　t	設計値以上			
						延長　L	—			
6 林道	7 トンネル NATM	5 覆工	5		床版コンクリート工	幅　w	−50	施工延長40mにつき１ヶ所。 延長40m以下のものは１施工箇所につき２ヶ所。		6-7-5-5
						厚さ　t	−30			

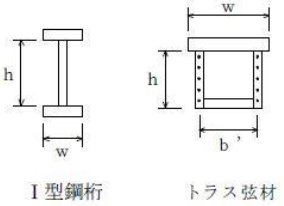
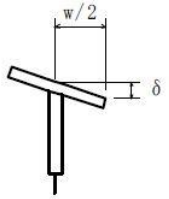
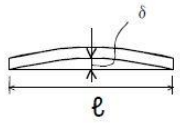
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工　種	測　定　項　目	規格値	測 定 基 準	測　定　箇　所	摘　要
6 林道	7 トンネル NATM	6 インバート工	4		インバート本体工	幅　w（全幅）	－50	(1) 幅は、施工40mにつき１ヶ所。 (2) 厚さ (ｲ) コンクリート打設前の巻立空間を１打設長の中間と終点を図に示す各点で測定。 (ﾛ) コンクリート打設後、インバートコンクリートについて１打設長の端面（施工継手の位置）において、図に示す各点の巻厚測定を行う。		6-7-6-4
						厚 さ　t	設計値以上			
						延　　長　L	—			
6 林道	7 トンネル NATM	8 坑門工	4		坑門本体工	基　準　高　▽	±50	図面の主要寸法表示箇所で測定		6-7-8-4
						幅　　w1，w2	－30			
						高さ h　h＜3m	－50			
						高さ h　h≧3m	－100			
						延　　長　L	－200			
6 林道	7 トンネル NATM	8 坑門工	5		明り巻工	基準高▽（拱頂）	±50	基準高、幅、高さ、厚さは、施工延長40mにつき１ヶ所を測定。 なお、厚さについては図に示す各点①～⑩において、厚さの測定を行う。		6-7-8-5
						幅　w（全幅）	－50			
						高さh（内法）	－50			
						厚　　さ　t	－20			
						延　　長　L	—			

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値 個々の測定値（X）	規格値 平均の測定値（X_{10}）	測定基準	測定箇所	摘要
6 林道	8 道路維持	3 舗装工	5		切削オーバーレイ工	厚さ t	－9		厚さは20m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長40m毎に１ヶ所の割とし、延長40m未満の場合は、２ヶ所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。	 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	6-8-3-5
						幅 w	－25				
						延長 L	－100				
						平坦性	—	3mﾌﾟﾛﾌｨﾙﾒｰﾀｰ （σ）2.4mm以下 直読式(足付き) （σ）1.75mm以下			
6 林道	8 道路維持	3 舗装工	7		路上再生工	路盤工 厚さ t	－30		幅、厚さは延長40m毎に１ヶ所の割で測定。		6-8-3-7
						路盤工 幅 w	－50				
						路盤工 延長 L	－100				

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準		測定箇所	摘要
								鋼桁等	トラス・アーチ等		
6 林道	10 道路修繕	3 工場製作工	4		桁補強材製作工	ﾌﾗﾝｼﾞ幅　w（m） 腹板高　h（m） 腹板間隔　b′（m）	±2…　w≦0.5 ±3… 0.5＜w≦1.0 ±4… 1.0＜w≦2.0 ±(3＋w／2)… 2.0＜w	主桁・主構	各支点及び各支間中央付近を測定。	 I型鋼桁　トラス弦材	6-10-3-4
								床組など	構造別に５部材につき１個抜き取った部材の中央付近を測定。		
						フランジの直角度δ（mm）	w／200	主桁	各支点及び各支間中央付近を測定。		6-10-3-4
						圧縮材の曲がりδ（mm）	ℓ/000	—	主要部材全数を測定。 ℓ：部材長（mm）		6-10-3-4